

英検

英語情報

2019
創刊号

2019年11月15日発行 通巻135号

英語教育の"今"を知る。明日からの授業が変わる。

どうする？ どうなる？

小学校英語

いよいよ始まる
新しい授業に向けて
疑問を解決！



早期化・教科化にどのように対応すべきか？

第19回 小学校英語教育学会 (JES) 北海道大会より

「主体的・対話的で深い学び」
を実現する授業づくり

今日から始めるオビカツ

夏休み課題を変えたら、
生徒の学びが変わった
新潟県立新発田高等学校の挑戦

教員の自主研修 大分県編

地域で発足した自主研修の輪を県全域に広げ
より良い授業づくりを考える場に

変わる 大学の教職課程

明海大学 教職課程センター・地域学校教育センター

もっと、英語教育の「今」を伝える情報誌へ。
もっと、英語教育に関わる先生方に役立つ情報誌へ。

『英語情報』を新創刊いたしました。

2020年からの新学習指導要領実施、大学入試改革に向けて、

今日から活用できる、授業づくりや指導に役立つ情報を

記事や動画でお伝えします。

英語教育に関わる全国の先生方とともに、

さらに誌面を充実させてまいります。

このたびの台風15号ならびに台風19号により被災された皆さまには、
謹んでお見舞い申し上げます。皆さまのご安全と、一日も早い地域の
復興を心よりお祈りいたします。



『英語情報 AR』アプリで
誌面で紹介した授業の動画を視聴できます。

STEP 1 アプリをダウンロードします。(無料) (iOS/Android対応)

スマートフォンかタブレットを用意して、



または



から「英語情報 AR」と検索し、ダウンロードします。

STEP 2 アプリを起動し、画像をスキャンします。



本誌記事中の「AR」マークの付いた画像が 枠内に収まるようにスキャン します。

STEP 3 動画が再生されます。

「スキャン完了」と表示されると、動画が始まります。

一度スキャンした動画は「履歴」をタップすれば、いつでも動画をご覧いただけます。

※ iPhone/iPad ➡ iOS 7.0 以上、
Android ➡ ver. 4.0 以上。
Android版は一部対応していない端末がございます。
インストール画面の動作確認端末をご確認ください。

※ カメラのピントが合わなかったり、光が反射したりすると、読み込みができない場合があります。
※ 読み込まない時は、カメラ位置を少し上下させて読み込み距離を調整してください。
※ 読み取りに時間がかかる場合はアプリを再起動し、再スキャンをしてください。
※ 動画の再生にはネットワーク環境が必要です。Wi-Fi、またはLTE 環境を推奨しています。

CONTENTS

特集

02 小学校英語

いよいよ始まる新しい授業に向けて 疑問を解決！

玉川大学大学院 佐藤 久美子 名誉教授



10 新学習指導要領全面实施を見据えた小学校英語教育 早期化・教科化にどのように対応すべきか？

第19回 小学校英語教育学会 (JES) 北海道大会より



14 「外国語教育はこう変わる！」

文部科学省 / mexchannel より

連載

16 今日から使える！ クラスルーム・イングリッシュ

第2回 文部科学省『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』より

18 「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業づくり

愛知県立大学 外国語学部 池田 周 教授



22 今日から始めるオビカツ 「AR」

一般財団法人 実用英語推進機構 安河内 哲也 代表理事



特別記事

26 夏休み課題を変えたら、生徒の学びが変わった 新潟県立新発田高等学校の挑戦

廣澤 卓郎 先生 根立 望 先生 村山 真優 先生



32 一人一人の夢や個性を大切にする「オンリーワン教育」

大阪府 興國高等学校 草島 葉子 理事長・校長



36 未来の科学技術人材を育成！

スーパーサイエンスハイスクールの取り組み



連載

40 教員の自主研修

地域で発足した自主研修の輪を県全域に広げ より良い授業づくりを考える場に

第2回 大分県編

大分県中学校英語教育研究会 会長 志賀 哲哉 先生

前事務局長 小倉 弘文 先生

研修部長 橋迫 知章 先生

研修担当 丸田 仁 先生

事務局 大塚 慶一朗 先生 多田 直樹 先生



教員研修・教員養成

44 授業改善に取り組む仲間と出会い

明日からの授業づくりのヒントを得る

2019年度 全英連・英検共催 英語教員国内研修

48 変わる 大学の教職課程

第1回 明海大学 教職課程センター・地域学校教育センター

副学長 高野 敬三 教授

同センター 石鍋 浩 教授 百瀬 美帆 准教授



News & Topics

52 公益財団法人 日本英語検定協会からのお知らせ 「AR」

いよいよ始まる新しい授業に向けて

疑問を解決！

小学校では、いよいよ来年度から3、4年生の外国語活動、5、6年生の外国語科が始まります。

新学習指導要領の実施を目前に控え、子供たちの未来のために、

より良い授業を実現するために、抑えておくべきポイントとは何でしょうか？

玉川大学大学院名誉教授の佐藤久美子先生が、小学校の先生方の疑問を解決します！

撮影：加藤 麻希 イラスト：駿高 泰子



読者アンケートで関心の高かった
5つのトピックを取り上げます

授業づくり

評価の意義

他教科連携・小中接続

校内研修・授業研究

英語力向上

玉川大学大学院 名誉教授
佐藤 久美子 先生

津田塾大学大学院博士課程修了。玉川大学大学院 教育学研究科（教職大学院）名誉教授・特任教授。長年、子供の言語獲得・発達過程を研究し、研究から得られた科学的知見を外国語としての英語教育に応用し、指導法や教材開発を行う。英語教育の対象者は、0歳児から小学生、中学生、大学生を含めた大人にもおよび。2016年3月まで、NHKラジオ『基礎英語3』の講師を通算8年務め、テキスト執筆や番組のプログラムに知見を生かす。さらに、2012年度からNHK Eテレ『えいごであそぼ』『えいごであそぼ with Orton』の総合指導、2017年度よりNHK Eテレ『エイゴビート』番組委員を担当。2007年度より東京都町田市教育委員会の委託を受け、市内の42校にカリキュラムを配信するなど、小学校英語研修講師、講演多数。小学校英語指導者認定協議会理事。

授業づくりのポイントとは？

1つ目は、**授業構成を一定にすること**です。授業の流れが毎回同じであれば、子供たちも次に何をするのか見通しを持って、授業に参加することができます。また、ALTとチーム・ティーチングをする際にも、授業構成が一定であれば、あまり打ち合わせの時間を取れなくても、お互いにすべきことが明確になり、スムーズに授業を進めることができます。2つ目は、先生が**英語を話すことを楽しむこと**です。発音のお手本にはALTを活用し、先生自身が子供と一緒に学ぶ姿勢で、英語の授業を楽しみましょう。最初から授業を全て英語で進めることを目指す必要はありません。まずは確実に使えるクラスルーム・イングリッシュやフレーズを増やしていき、日本語の使用を減らしていけばよいのです。3つ目は、**スモールステップを踏むこと**です。先生も子供たちも少しずつできることを増やして、自信を付けていくことが大切です。まずは一步を踏み出してみましょう！

【授業の流れ（例）】

15分	あいさつ	How are you? 天気や曜日、日にちを聞くなど
	Warm-up	歌、チャンツ、Small Talk。今日のめあてを確認
	Activity 1	既習表現や新出表現の練習
15分	Activity 2	目的・場面・状況など必然性のあるやり取り
15分	発表	自分の思いを伝える発表活動など
	振り返り	今日の振り返り
	あいさつ	次時の活動紹介



黒板や ICT の効果的な活用法は？

黒板の活用

黒板には、**授業の流れを提示**し、今はどの活動をしているのかが分かるように示していきます。あいさつで、“What’s the date today?” “It’s September 30th.”とやり取りしたら、黒板にSeptember 30thと書きます。3、4年生は書いた文字と一緒に“S・e・p・t・e・m・b・e・r”と読めば（スペルアウト）、文字に慣れ親しむことができます。5、6年生は文字を見ながらノートに書き写してもいいでしょう。黒板は、子供たちが**文字を読んだり、書き写したりするときのモデル**になります。また、「今日のめあて」を黒板に書いておくと、授業の活動の意図が子供たちに伝わり、振り返りをするときにも**「授業で何をしたのか」「何ができるようになったのか」を捉えやす**くなります。



ICTの活用

子供たちが英語に慣れ親しむには、**歌やチャンツ**が効果的です。年齢が上がるにつれ、「どんな意味だろう」と考えるようになります。デジタル教材を活用すれば、歌詞と映像から意味を理解することができます。また、数の表現に慣れ親しむには、“What fruit do you want?” “I want apples.” “How many?” “Three!” のようにやり取りをします。電子黒板などにお皿とフルーツのイラストを表示し、“One, two, three.”と言いながらリンゴを3つお皿にドラッグ&ドロップすれば、子供たちは**英語を聞きながら、視覚的に意味を理解**することができますね。さらに、夏休みの思い出を話す活動などでは、子供たちが持ち寄った写真を画面に映し出して話すとShow and Tellの活動ができます。



Small Talk の進め方は？

Small Talkの目的は2つあります。1つは、**学びの動機付け**です。子供たちに「英語で話すと、こんなことが言えて楽しいよ」という気持ちを沸き立たせる役割があります。もう1つは、「今日のめあて」に関わる**単語や表現をモデル会話で示す**ことです。子供同士で活動させる前に、まず学級担任とALTでモデル会話を示すと、どのような表現を使ってやり取りをすればよいのが明確になります。

<実践例1> やり取りを見せながら児童に答えてもらう



<実践例2> 「今日のめあて」の学習について示す



高学年になったら、先生自身が休みの日にしたことや、夏休みに海外旅行をしたこと、修学旅行などをトピックにSmall Talkをしても楽しいですね。その際に大切なのは、先生が一方向的に話すのではなく、**子供たちに問いかけながらやり取りをして、会話を展開**することです。例えば、ある小学校では天気の話をするときに、修学旅行で日光に行ったことを踏まえて、先生が黒板に16.5℃と書き、“It is sixteen point five degrees centigrade in Nikko.”のように、その日の日光の気温を紹介していました。子供たちは“It’s cool!”と答えて、日光は夏でも涼しいことを知るとともに、小数点を伴う数字はpointを使って表現することに気がきます。そして、みんなで“sixteen point five”と何度も声に出してみるのです。こうして先生が一方向的に話すのではなく、子供たちとやり取りをしながらSmall Talkを進めると、授業が楽しくなります。

子供たちへの問いかけや声かけは？

定型の応答フレーズのパターンをいくつか作ってしまうとよいと思います。「先生が声をかけたら、子供たちが必ずこのように答える」という習慣を付けることが大切です。決まった表現をみんなで答えるのであれば、どの子も抵抗なく言えますし、先生も声をかけやすいですね。

<応答例1>

担任：Let's start our English class. Are you ready?

児童：Yes! We are ready.

<応答例2>

担任：Do you want to chant one more time?

児童：Yes, please!



絵本の読み聞かせの楽しみ方は？

授業の終わりや朝学習の時間などに絵本の読み聞かせをする際には、お話の途中で、**内容に関する問いかけをして子供たちとやり取りをしながら読み進めると**よいでしょう。例えば、“What color is it?” “Do you like it?” “What is he doing?” などと問いかけます。そして、子供たちの声が上がったら、少しくらい英語が間違えていても、“That’s right.” “Good!”などと褒めます。そのようにして「思ったことを話して大丈夫なんだ」という空気をつくるのです。ささいなことでも子供たちが何か言葉を発したら、**すぐに振り向いて反応し、短いシンプルな英語で返す**ことがポイントです。その姿勢が、子供たちの発話量を増やす秘訣です。

子供たちの意欲を引き出す秘訣は？

子供たちが、いかに「褒められた経験」や「できた!」という成功体験」を積み重ねていけるかがポイントです。

子供たちが友達と話したくなるような目的や場面、状況などの必然性をつくることも大切です。例えば、『Let's Try! 2』には“Do you have a pen?”の単元がありますが、自分のペンケースを手に“Do you have a pen?” “Yes, I do. / No, I don't.”と尋ね合って表現に慣れ親しんだら、子供たちが実際に友達に聞いてみたいことをお互いにやり取りする活動にできるとよいですね。ある小学校では、子供たちが「お友達の家にある物を知りたい」ということで、やり取りをしました。自分が聞きたいことだと、プラスアルファの質問も添えることができ、活動が盛り上がりました。



評価で心掛けることは？

新学習指導要領で求められるのは、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の3つの観点に沿って、子供たち一人一人の学習状況を評価することです。「知識・技能」については、毎回の授業で目標設定や目標表現がありますから、子供たちにあらかじめ、「“Do you have a pen?”と“Yes, I do. / No, I don't.”が言えたら『よくできました』だよ」と伝えておくことが大切です。そして、「“What color?”や“Big or small?”などの質問、“Wow!” “Very good!” “Me, too.”などのリアクションもできたら、『大変よくできました』になるよ」と伝えておけば、子供たちが目指すべきことを理解して活動することができます。例えば、子供たちが活動をするときにBig voice (Clear voice) / Eye contact / Smile / Tryの頭文字をとった「BESTができていたか」を評価することもよいでしょう。子供たちが言葉や表現に十分に慣れ親しんだら、発音やイントネーションも評価の対象になりますし、会話や発表で「長く話せる」ということも評価してよいと思います。知識の量や完璧にできたかどうかを評価するのではなく、**多様な視点で子供たちの活動を見取り、評価をしていただきたい**と思います。小学校の先生方は体育や図工、音楽の技術科目の評価をすでにしていますから、それらの教科の評価規準なども今後の参考になるでしょう。

Big voice

Eye contact

Smile

Try

「振り返り」で意識することは？

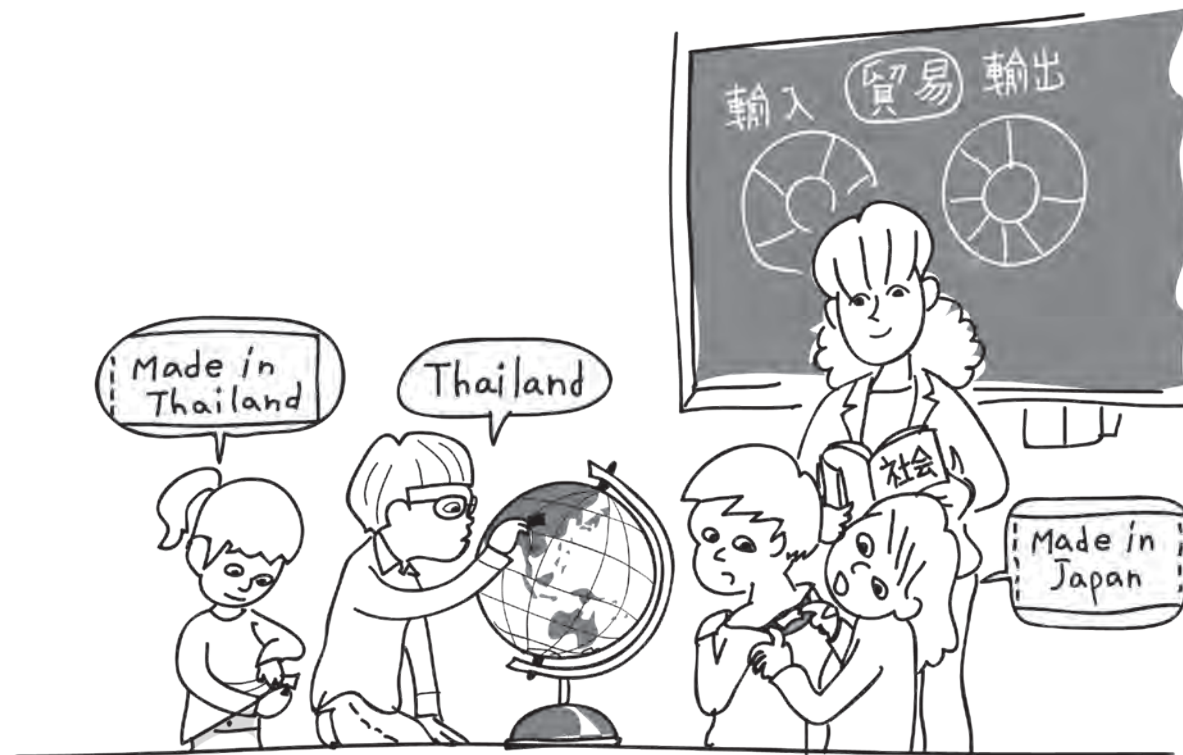
「振り返りシート」を使って、「よくできた」「できた」「できなかった」と3段階で丸を付けたり、笑顔や泣き顔のマークにチェックをしたりする学校は多いでしょう。ただし、それだけで終わらせずに「**今日のめあて**」に対して、「**自分は何ができるようになったのか**」を自由記述させることも大切です。その際、**友達の良かったところも記入し**、最後に全体で共有します。例えば「Aちゃんの発音が良かった」「Bくんが面白いクイズを作った」「CちゃんはBESTをできていた」と、お互いの良さを認め合うことは素敵ですね。「外国語活動を通じて、子供たちの優しい気持ちが育まれた」などとよく聞きますが、**外国語活動は学級経営にもつながる**のです。

評価は何のためにする？

外国語活動や外国語科は、子供たちのコミュニケーション能力を養うことを目標としています。そのためには、各単元で十分に目標表現に慣れ親しんだうえで、単元の終末などには「**一人ずつ発表する**」機会を与えて**評価をすることも必要**です。例えば、発表の様子を動画で撮影しておき、3学期の最後の授業で子供と一緒にその様子を視聴すれば、「1学期はできなかったことが、3学期にはここまでできるようになったね」と、**個々の進歩の状況を確認し、成長を褒める**ことができます。誰だって、上達したことや良いところを褒めてもらえたらうれしいですね。評価は子供たちのやる気を高め、自信を引き出すことにつながるのです。

他教科と英語を連携するには？

小学校の先生の利点は、全ての教科を教えていることです。例えば5、6年生の社会科で「輸出・輸入」を学んだことを生かして、Small Talkで先生が「みんなの服はこの国で作られているの？」と質問してはいかがでしょう。子供たちからは、Tシャツなどに付いているタグを見て中国、ベトナム、タイなどいろいろな国名が出てくるはずです。黒板に国名を記して発音し、世界地図を広げて指していけば、社会科と英語をつなげて学習することができます。ほかにも、国語の授業で「和語・漢語・外来語」を学んだら、「What language is *kasutera* from?» 「カステラはこの国の言葉？」と英語で投げかけて考えさせ、ポルトガル語由来の言葉を紹介していくこともできるでしょう。**教科の枠にとらわれずに、子供たちの学びや興味とつなげながら、いろいろな場面で英語を活用**することができるのです。**子供たちの知的好奇心をそそる身近な題材を見つけて、英語で話す、英語で学ぶ**ことを取り入れていけるとよいですね。



小中接続を円滑にするには？

小中接続を円滑に進めるうえでは、**中学校の先生に小学校の授業を見てもらい、子供たちが慣れ親しんできた表現を把握していただくことが重要**です。例えば、6年生では“What do you want to be?”や“Where do you want to go?”といった表現を使ってやり取りをしていますね。これらは中学2年生で学ぶ「不定詞」を使った表現でもあるのです。小学校で子供たちがこうした表現を使って活動し、自分のことを話している様子を見れば、中学校の先生も文法の解説から入らずに、目標表現を使ってまずは話してみることの大切さを実感されるはずです。中学校では、1年生の夏休みを過ぎると「英語が好きな生徒」の割合がぐんと下がります。小学生の頃にせっかく芽生えた「英語が楽しい」「もっと話せるになりたい」という気持ちをさらに伸ばしていくためにも、中学校でも必然性のあるやり取りを中心とした授業へと転換していったほしいと願っています。



校内研修の効果的な進め方とは？

校内研修として効果が高いのは「公開授業」をすることです。校内全ての先生が、1～2年に1回は必ず授業を公開するのが理想です。例えば、低学年・中学年・高学年で代表の先生を決めます。その際、代表の先生だけで指導案を考えずに、**学年の先生全員で一つの授業をつくり上げていくことが大切**です。月に1回、1年生から6年生まで全学年でひと通り授業を公開すれば、1年間で6回分の授業を見ることができます。そして、公開授業の前後にアドバイザーの先生をお呼びして、講義と他校の先生方や保護者も招いた公開授業や研究発表会を開けば全8回の校内研修となります。この流れで2年間実施すれば、ほぼ全員の先生が公開授業を体験することになります。このような経験をすることで、学年の先生同士の団結力も高まり、お互いの授業づくりのアイデアを知る機会にもなり、授業力が付くものです。

【校内研修の例（全8回）】

第1回	アドバイザーの先生のお話	教育委員会の指導主事や大学の先生、英語教育推進リーダー中央研修を受けた先生など、アドバイザーとしてふさわしい先生から授業改善についての講義を受ける
第2～7回	公開授業	1カ月に1回、1年生から6年生まで授業を公開する。その後、全教員で協議会を持ち改善点を話し合い、アドバイザーの先生から指導助言を受ける
第8回	振り返り・まとめ・研究発表	他校の先生方、保護者も招き、公開授業や研究発表会を催す



授業を見るときポイントは？

お互いの授業を見るときポイントは、**共通の視点を持つこと**です。「必然性のある場面を設定できているか」や「学級担任と児童、児童同士のやり取りはできているか」など、着目すべき点をクリアにしておくことで改善点が見えてきます。回を増すごとに先生方の質問も鋭くなっていきますよ。



英語に自信がなくても大丈夫？

皆さんは「英語習得2,000時間説」を聞いたことがありますか。外国語を習得するには2,000時間以上の学習をすることが必要だとされている説のことです。例えば、もし毎日2時間英語を学習するなら、3年弱で2,000時間を達成できます。子供が母語を習得していくにも、1語文が次第に2語文となり、文で話すことができるようになっていくには、2年から3年ぐらいかかりますよね。3歳にもなれば、ある程度のコミュニケーションが取れるようになるものです。そう考えれば、英語が苦手で聞き取れないと最初は感じて、3年もがんばっていれば、それなりにコミュニケーションができるようになります。ビジネス英語を求められているわけではありませんから、**1年目で完璧に**

しなくてはと気負わず、長い目で見ていけばよいのではないのでしょうか。



教員の英語力をどう伸ばす？

まずは授業をたくさんすることですね。「習うより慣れろ」という言葉があるように、場数を踏むことに尽きます。私が5年前に出会ったある小学校の先生は、「英語が苦手です」と仰って、授業を始めたばかりの頃は、「OK?」「OK→」「OK↓」と、イントネーションを変えながら「OK」を連発していたんです。それが、5年経った頃に授業を拝見したら、驚いたことにAll Englishで授業をできるまでの指導力、英語力へと成長していたのです。これはその先生が「**子供たちと一緒に学ぶ**」という姿勢で授業を積み重ねて来たたまものだと実感しました。先生は、決してパーフェクトでなくていいのです。「子供たちと一緒に学ぼう」という気持ちで、ALTに“What do you say ○○ in English?”と聞いてしまっても構いません。子供たちはそのようなやり取りを間近に見て学んでいきます。週2回の授業と向き合い、ALTと会話をしたり、テレビやラジオなどで英語を聞く機会を増やしたりして、英語に親しむ。そうするうちに、必ず英語力は伸びていきますよ。



小学校に英語を導入する目的は「**コミュニケーション能力の育成**」にあります。コミュニケーションの基本である「**自分の気持ちや意見を相手に堂々と伝えること**」と「**友達の思いや話をしっかり聞くこと**」を身に付けておくと、子供たちが将来社会に出たときに必ず役立ちます。また、英語を学ぶことは**日本とほかの国との共通点や文化の違いを知ること**にもつながります。自分とは違うことを認める寛容心を持つことは、とても大事なことですよね。これからますます日本の人口が減って、他国の方が学校や職場に増える時代がやってきます。まさに私たちは「**共生の社会**」を生きるわけですが、そのような時に、「英語が話せたら友達になって、一緒に学んだり仕事をしたりすることもできるんだ」という可能性を、子供たちに伝えていただきたいと思います。



早期化・教科化にどのように対応すべきか？

第19回 小学校英語教育学会（JES）北海道大会より

新学習指導要領の全面実施が目前に迫っている。2019年7月、全国から1,000名を超える参加者が集まり、2日間にわたって開催された「第19回小学校英語教育学会（JES）北海道大会」では、授業研究やワークショップ、課題研究発表、シンポジウム、口頭発表、ポスター発表などを通じて、全国のさまざまな取り組みとその成果や課題が共有された。10年間にわたり蓄積されてきた外国語活動の実践や研究の成果を生かし、小学校ではこれからどのような対応が求められているのか。また、教科化にあたり、評価や中学校との接続をいかにすべきなのか。基調講演や特別講演、シンポジウムより、これらの要点を整理する。

大会1日目 基調講演

「英語授業で大切なものは何か ―授業実践報告の充実をめざして―」

関西大学 教授 竹内 理 先生

「実践報告」とは何か。それは授業を改善するためのツールとして存在すべきものではないでしょうか。授業を改善していくことができなければ、小学校英語教育の充実はありません。だからこそ、実践報告について理解を深める必要があるのです。

JESは「小学校における英語教育の理論と実践を研究し、小学校英語教育の発展に寄与すること」を学会規約として定めています。そして、このような全国研究大会やセミナー、ワークショップの開催、学会誌の発行を通じて、この規約の実現を目指しています。では、学会誌において、どのような実践報告がなされているのか。過去に発行された学会誌を調べると、投稿論文に比べて実践報告の投稿も掲載も非常に少ない。それはなぜか。投稿論文に関する投稿規定はあっても、実践報告の規定や評価基準が明示されていないこと、また、「何に着目して報告すればよいのか分からない」というところに原因があるのかもしれません。

そこで、「授業を改善するために何に着目すればよいのか」についてアンケートをとったところ、ベテラン教員は「学習目標」

「授業の構成」「言語活動」を挙げ、授業のめあてから評価まで一連の流れに着目していると答えました。「理論との整合性」や「学習指導要領との整合性」についても着目している回答も見られます。一方で、教師の卵は「テクニック」「言語活動」「発話」を挙げました。発話については、子供たちの発話量ではなく、教師がどれだけ英語を話しているかということでした。

また、『「実践報告」において何を重要とするか』について調査した結果を整理する

と、「担当教員に関する情報」「対象者に関する情報」「地域、学校に関する情報」「実践そのものに関わる情報」「実践の成果と評価に関わる情報」「その他の情報」が求められていることが分かります。そして、写真やビデオ、利用した教材の情報や実物が添えられていると、より具体的に実践が見えると考えられているようです。今後は、映像付きの実践報告やグラフィック・オーガナイザーを活用していくのもよいのではないのでしょうか。

【竹内先生の提示した「実践報告のフォーマット」】

（実践報告のフォーマット（私案））

実践タイトル（簡潔にわかるもの）
実施責任者名・学校名
実施校種・学年・1クラスの人数
実践の課題
内容のグラフィック・オーガナイザー（要約に替えて）
キーワード（所定のものから選択して5つほど）

＜以下をできるだけ簡潔に記載＞

1. 本実践の意義と背景（理論や社会的背景、必然性）
2. 本実践が解決しようとしている具体的問題（何を目的としているか）
3. 過去の実践事例について（他者の報告との関連）
4. 本実践の実施環境について（地域や学校の特徴、教室や什器・機器）
5. 本実践の対象者（集団）について（学年、英語力、人数、特徴）
6. 本実践の担当者について（生徒・児童観、教育観、関係性）
7. 本実践の具体的手順について（含む用具、手順のフローチャート）
8. 本実践の成果について
9. 本実践の振り返りと問題点（困難点、限界点、問題点、失敗点）の指摘
10. 本実践から得られる将来に向けた展望

付録

参考文献

教案（1回・単元・年間）あるいはダウンロードできるURL

ビデオ（サムネール付き）アーカイブへのURL

利用した教材サンプルと資料等がダウンロードできるURL

成果測定に利用した用具とダウンロードできるURL

大会2日目 特別講演

「新学習指導要領全面実施に向けて、指導と評価の在り方について考える」

文部科学省 初等中等教育局 視学官 直山 木綿子 先生

「数」字による評価で子供が英語を嫌いにならないか」「子供の評価をできるだけ英語力が自分にあるのか」など、小学校の先生方から、評価はどうしたらよいのかと質問をよく受けます。

そもそも評価とは何のためにするのかを、まず考えてみましょう。授業で目指した力が付いているかを評価するのです。やっていないことは評価することはできません。だからこそ、まずは外国語活動の授業をしっかりとやってほしいと思います。高学年であれば、外国語科を意識した外国語活動の授業です。「知識及び技能

等」の習得、「思考力、判断力、表現力等」の育成、「学びに向かう力、人間性」の涵養を目指す言語活動をしてほしいと思っています。言語活動とは何かを理解するためにも、改めて、新学習指導要領の「解説」や『小学校外国語活動・外国語科研修ガイドブック』を読んでください。今後、『研修ガイドブック』は、評価についても盛り込んだ改訂版を出す予定です。新学習指導要領に対応した学習評価については、中央教育審議会により、2019年1月に「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」として、基本的な考え方や具体



的な改善の方向性等が示されていますので、文部科学省のホームページ（下部QRコード）よりご覧ください。

1. 学習評価資料作成のスケジュールについて

文部科学省は、2019年3月に、「報告」を基に「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について（通知）」を発出しました。それも受け、今後、国立教育政策研究所が学習評価に関する資料を作成し、ホームページ等でも公表する予定です。それに先立ち、6月の指導主事会では、その資料の一部案を配布、加えて、11月指導主事会でさらに一事例案を出す予定です。

2. 学習評価の在り方について

「報告」では、学習評価の在り方について、次のように示しています。

- ①児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
- ②教師の指導改善につながるものにしていくこと
- ③これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと

学習評価の基本的な枠組みは「報告」Pに掲載されていますので、ご覧ください。3、4年生は、「記述欄を簡素化したうえで、評価の観点に即して、児童の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する」こととし、5、6年生は、他教科同様、「観点別学習状況の評価」と、それらを総括的にとらえる「評定」を行うことになります。

観点別評価については、「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点到整理され、評定については、3段階で評価することになります。「感性、思いやりなど」は「個人内評価」とし、児童生徒一人一人のよい点や可能性、進歩の状況などを評価し、指導要録の所見欄に記入します。

中央教育審議会 2019年1月

「児童生徒の学習評価の在り方について（報告）」



3. 評価の観点について

「報告」では、観点別学習状況評価の改善について、新学習指導要領の規定に沿って評価規準を作成し、各教科等の特質を踏まえて適切に評価方法等を工夫することにより、学習評価の結果が児童生徒の学習や教師による指導の改善に生きるものとするのが重要であるとしています。それぞれの観点において、何を評価すべきかを示します。

◆「知識・技能」の評価

- ・各教科等における学習の過程を通した知識及び技能の習得状況について評価を行う
 - ・それらを既存の知識及び技能と関連付けたり活用したりする中で、他の学習や生活の場面でも活用できる程度に概念等を理解したり、技能を習得したりしているかについて評価する
- （評価例）児童生徒が文章による説明をする／各教科の内容の特質に応じて観察・実験をする／式やグラフで表現する

◆「思考・判断・表現」の評価

- ・各教科等の知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身に付けているかどうかを評価する
- （評価例）論述やレポートの作成／発表／グループでの話し合い／作品の制作や表現等の多様な活動を集めたポートフォリオの活用

◆「主体的に学習に取り組む態度」の評価

- 各教科等の「主体的に学習に取り組む態度」に係る評価の観点の趣旨に照らして
 - ・知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとする側面を評価する
 - ・粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面を評価する
- （評価例）ノートやレポート等における記述／授業中の発言／教師による行動観察／児童による自己評価や相互評価

学習評価については、学校全体で組織として学習評価やその結果を受けた学習指導の工夫・改善の取組を促すとともに、教育課程や校内体制の改善などを促すカリキュラム・マネジメントも併せて重要となります。

「話すこと」ではどのようなやり取りをすべきか

文部科学省 初等中等教育局 教科調査官 山田 誠志 先生



「話すこと」のやり取りとはどのような言語活動でしょうか。皆さんはスモールトークでどのくらいの発話を目指していますか。スモールトークを始める前に、まず目標を具体的な発話（例）レベルまで落とし込んで明確に設定しておきましょう。目標が明確になれば、やるべきことが見えてくるものです。

スモールトークに限らず、やり取りの指導の仕方は目の前の子供の実態に応じて、先生ご自身の創意工夫を存分に発揮

していただきたいと思いますが、基本の流れとしては、まず先生が、自分自身について語ることが大事です。そのときに大切なことは、子供に使わせたい表現を用いることです。また、相手の言ったことに対して、関連する質問をしてほしいと思うのなら、先生自身が関連質問をしながら子供とやり取りをします。実際に使用する場面を設定することも大切です。そのうえで、子供同士でやり取りをさせる。その際には子供たちが、実際にその表現を使うことができているのかを十分に見取ってください。

また、活動と活動の合間に、中間評価（指導）をします。子供たちがどのようなやり取りをしたのか、その内容を聞き出して、そのことについてやり取りを楽しみながら、使わせなかった表現が使えたかを確認したり、相手の話に関連した質問をしていた子供の様子を取り上げて広めたり、といった指導を行うことを大切にし

てください。言いたくても英語で言えなかったことを取り上げ、簡単な表現で言い換えることができないかを考えさせることもできると思います。子供が言いたいことが英語で表現するのが難しければ、日本語のまま言っても構いません。英語で全て言わなければならないと思わず、深追いすぎないことです。

そして、再び活動をさせます。子供は1語や2語で発話したり、日本語交じりの英語で話したりすることがよくあります。言葉を学んでいく過程としては、それは当然です。徐々に基本的な表現で話すことができるようになるよう、子供たちを励ましなが



相手から学んでいるのです。先生方には子供たちがそのようにして学んでいくプロセスをつくっていただきたいと思っています。また、授業ごとの目標表現を明確に位置付けることも大事にしたいものです。canを導入したら、その授業ではcanしか言わない。これまでに慣れ親しんだI like ... さえも言わないとなると、canの授業にしかなくなってしまう。スモールトークで大切なことは、すでに使ってきた表現をリサイクルしながら使うということです。それをもとに自分のことを語ることができるようになる、という意識で取り組ませれば、準備もさほど必要なく、言語活動としてのスモールトークが位置付けられるのではないかと思います。

子供たちが主体的に学ぶ姿が見えるやり取りを仕組む

札幌市立石山緑小学校 教諭 嘉多山 葉子 先生

子供たちは外国語活動を通して、英語そのものを学ぶ以上に、友達とのやり取りを通じて友達の良さを知った、自分のことに立ち返ることができたことを喜びます。友達と話すことで、今まで知らなかった友達の一面を知って、より関係性が深まったということもあるようです。普段ならあまり関わりを持たないような控えめな子が活発な子とドキドキしながら話を

して、活動を終えたら笑顔になっていました。自分もその友達とコミュニケーションを取ることができた、と自信を持てたようでした。また、自分の考えや気持ちが伝わることの楽しさ、「できた」という満足感や達成感を味わえることも外国語活動の良さだと

思います。昨年度、前任校で6年生担任として『We Can! 2』のMy Best Memoryの単元を扱った際、「思い出アルバムを作ろう」という活動で子供たちが書いたものを卒業アルバムにとじ込みました。これまで自分が取り組んできた外国語活動の記録を形に残すことで、時を超える学びの素晴らしさを子供たちが体験できたことをうれしく思います。こうした活動の積み重ねによって、子供たちの主体的な学びの姿が見えてくると信じて、指導をしています。

言語活動に取り組ませるときに大切にしているのは、いかに子供たちが思考を働かせて自分ごととして話すことができるか、ということです。例えば、現在、『We Can! 2』のWelcome to Japanの単元を扱っていますが、子供たちが「日本は桜が有名です」と言いたいけれど言い方が分からない。どの言葉や表現を使えばよいのかを友達と考えながら、「今までに習ったcanを使えるよ」「seeだって使えるね」と話し

ながら、たどり着いたのは“You can see cherry blossom in Japan.”という表現でした。身近な言葉で、既習の表現で何とか伝えるという経験をするのが大事なのだと思います。また、コミュニケーションの目的・場面・状況を明確にすることも重視し、教員は、子供たちが自分の考えや気持ちを伝えたいと強く思い、そのための語彙や表現を知りたいと思えるように、「知ること、使うことの必然性のある言語活動」を仕組んでいくことが必要だと思



言語活動におけるスモールトークの位置付けとは

信州大学 教授 酒井 英樹 先生

新 学習指導要領では、知識及び技能を活用して、思考力・判断力・表現力等を育成すること、そしてそれらは、目的・場面・状況に応じた言語活動を通して行われることが大切であると示されています。言語活動とは基本的にコミュニケーションを意味します。コミュニケーションとは、対人だけでなく、情報のやり取りをすること、つまり情報を受け取ったり、発信したりすることです。このような

言語活動のなかで、どのような学びが可能なのか。「主体的な学び」としては、児童が伝えたいことを伝え合うという意味において、意欲的に取り組むでし

スモールトークを繰り返すだけでも、子供にとっては「学び」になります。子供たちはやり取りをしながら、いろいろなことを考え、



やり取りの重要性と留意点

JES 会長・東京学芸大学 教授 粕谷 恭子 先生

さんおられると思いますが、そのような方であっても負担感を少なく授業をしていた

外国語教育が早期化、教科化することにより、先生方は子供たちにしっかりと英語力を付けなければならないと思われることと思いますが、これまで丁寧に時間をかけて歩んできた道のりは大切にしていっていただきたい

日本では英語教育に取り組んでいくことになります。だからこそ、小・中・高等学校はリレーのチームのように力を合わせて



外国語教育は

こう変わる！

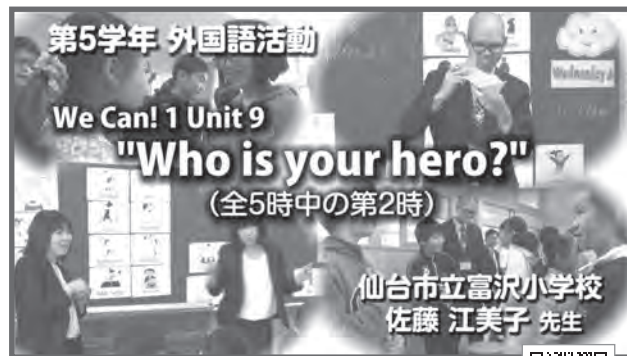
新学習指導要領に基づく授業の実践例を
文部科学省が動画で解説！

2020年度から始まる新学習指導要領のもとで、外国語教育はどのように変わり、授業をどのように変えていけばよいのか。文部科学省の動画チャンネル『文部科学省/mextchannel』の「外国語教育はこう変わる！」シリーズでは、有識者や教員の対談動画のほか、実際の小・中・高等学校の授業の様子とともに、授業におけるポイント解説を添えた動画を配信している。ここでは、授業改善に役立つ実践例の動画を3本紹介する。

▶ 小学校5年生 外国語活動

『We Can! 1』Unit 9 「Who is your hero?」より

宮城県 仙台市立富沢小学校 佐藤 江美子 先生



この授業の動画をこちらから視聴することができます。→



見どころ

- 06:10 解説を挟まず、教師同士で見せたやり取りを教師と子供と行う
- 08:55 クラス全員を巻き込んで表現を練習し、子供たち同士のやり取りにつなげる
- 12:16 子供たち同士でやり取りを行う
- 13:01 やり取りを終え、分からなかったこと等をクラスで共有し練習する
- 15:12 再度、子供たち同士でやり取りを行う

英語の意味を推測し、実際に使って考えや気持ちをやり取りする言語活動を通して、表現を身に付けていく授業例。

知らない単語や表現に出合ったときに、何とか英語でコミュニケーションを成立させるためには、文脈やその他の手掛かりをもとに「推測」する力と、実際に使ってみようとする態度が必要とされる。

英語に初めて触れる段階である小学校では、こうした資質・能力を身に付けるために、「十分に理解、練習してから活動する」という学習の流れではなく、本動画のように「(多少分からないことがあっても) 推測して、まずやってみてから課題に気づき、練習等で解決する」という学習の流れが効果的となる。

新学習指導要領の趣旨や 授業改善のポイントを対談で解説

文部科学省/mextchannel

「外国語教育はこう変わる！」シリーズ



▶ 中学校1年生

Small Talkの指導 やり取りをしながら指導する方途例

神奈川県 横浜市立横浜吉田中学校



この授業の動画をこちらから視聴することができます。→



見どころ

- 00:42 生徒とコミュニケーションを図りながら、言語活動で使わせたい英語表現を聞かせたり、言わせたりする指導
- 01:51 ALTとコミュニケーションを図りながら、言語活動で行わせたい対話の例を聞かせる指導
- 02:32 生徒とコミュニケーションを図りながら、言語活動でさらに使わせたい英語表現を聞かせたり、言わせたりする指導

コミュニケーションを通して、言語材料（過去形）について教える授業例。中学校の新学習指導要領では、「生徒が英語に触れる機会を充実するとともに、授業を実際のコミュニケーションの場面とするため、授業は英語で行うことを基本とする」と示されている。そのため、新しく学ぶ言語材料の導入にもひと工夫が必要となる。

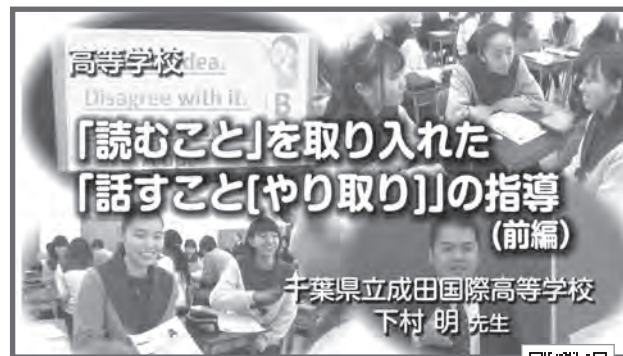
本動画では、言語活動に取り組ませる前に、使わせたい表現（過去形）を使用し、「過去形とは…」と解説をしたり、表現を示して「これらを使いましょう」という明示的な指導をしたりせず、新しく学ぶ言語材料、表現を使った生徒との自然なやり取りのなかで、それらの「音」「意味」「使い方」を教える。また、ALTも “We will show you a model. Please watch it.” とは言わずに、自然なやり取りをしながらモデル提示をしている。

「外国語教育はこう変わる！」シリーズではこのほかにも、文部科学省初等中等教育局情報教育・外国語教育課外国語教育推進室長と有識者の対談、同室視学官および教科調査官と小・中・高等学校教員の対談の動画なども配信している。新学習指導要領のポイントや授業改善に役立つ実践例の紹介などが、15～20分程度の動画にまとめられている。新学習指導要領実施を目前に控えた今、新たな授業のあり方を見直すきっかけになるだろう。

▶ 高等学校

「読むこと」を取り入れた 「話すこと[やり取り]」の指導（前編）

千葉県立成田国際高等学校 下村 明 先生



この授業の動画をこちらから視聴することができます。→



見どころ

- 02:45 本時の言語活動で使う表現等の提示
- 06:20 言語活動に関してクラス全体へのフィードバック
- 07:10 使用語彙についての言い換え
- 07:47 読む前：読む内容の話題に関して考え、話して伝え合う
- 10:35 読んでいる間：読む文章に関する質問により、何を読み取るかの指導
- 13:15 読んだ後：読み取ったことに関して、生徒とのやり取りにおいて全体で共有

「読むこと」に関する、読む前・読んでいる間・読んだ後における効果的な指導の授業例。新学習指導要領の「読むこと」は、単に英語を日本語に置き換えるのではなく、「何を読み取ることが必要か」を考えながら、目的等に応じて必要な情報などを読み取る力を養うことを目指している。

「読むこと」と「話すこと[やり取り]」の統合的な言語活動で展開される本動画では、読む内容に関して、生徒自身と関連付けて考え生徒同士で話させたり、質問を通して「何を読み取らなければならないのか」を考えさせて読ませたり、読んだ後に生徒から内容を引き出しながら確認したりといった、活動の流れが円滑であり、教師の適切な配慮が見られる。生徒同士が自分の考えや意見について、理由を添えて話して伝え合うやり取りの様子が随所で見受けられる。

クラスルーム・イングリッシュ

〔連載〕第2回

小学校の外国語活動では、どのような場面で、どのような表現を使って、やり取りをすればいいのでしょうか？ 今回は、文部科学省の『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』の「6 実習編」より「クラスルーム・イングリッシュ」の一部をご紹介します。授業の始まりや終わり、児童への指示、褒めたり、励ましたりする際に使用する表現です。

クラスルーム・イングリッシュを使うときのポイント

クラスルーム・イングリッシュを使うときは、普段日本語で児童に話すときと同じように、**児童の理解の程度を確かめながら、ゆっくり、はっきり**と言うように心掛けます。いくつかの指示を出さなければならないときは、一度にたくさんの指示をしたり、長文で指示をしたりすることは避け、**簡潔な文で一文一文、児童の理解を確認しながら指示をする**などの配慮が必要です。

新出の表現を使うときは、**何度か聞かせる**とともに、**動作を加えたり、絵を描いたりして児童の理解を助ける**ようにしましょう。場合によっては、**日本語を効果的に活用し**、教師の意図するところが全ての児童に正しく伝わるように工夫しましょう。その際には、**児童の目をしっかりと見て**言います。指示を出すときには、**文頭や文末にpleaseを加えて**使うようにしましょう。

You did a good job!



授業の始まり (STARTING CLASS)

← 文部科学省/mextchannelにて音声聞いて練習することができます。

1	おはようございます。	Good morning.
2	こんにちは。	Hello. / Good afternoon.
3	みなさん、こんにちは。	Hello, everyone.
4	英語の時間です。	It's time for English class.
5	元気ですか。 今日の調子はどうですか。	How are you? How are you today?
6	今日は何曜日ですか。 — 金曜日です。	What day is it today? —It's Friday.
7	今日は何月何日ですか。 — 4月25日です。	What's the date today? —It's April twenty-fifth.
8	今日の天気はどうですか。 — 晴れています。	How's the weather today? —It's sunny.
9	立ちなさい。	Stand up.
10	座りなさい。	Sit down.
11	席に戻りなさい。	Go back to your seat.
12	準備はいいですか。	Are you ready?
13	始めましょう。	Let's begin. / Shall we begin?
14	今日の目標です。	This is today's goal.
15	目標を一緒に読みましょう。	Let's read the goal together.
16	これが今日の授業内容です。	This is today's [lesson / class schedule / plan].



授業の終わり (ENDING CLASS)

1	今日の授業の振り返りをしましょう。	Let's review today's class.
2	振り返りカードを取り出してください。	Take out your [reflection sheet / furikaeri card].
3	今日の授業はどうでしたか。	How was today's class?
4	今日はこれで終わります。	That's all for today. / We're finished.
5	今日の授業は楽しかったですか。	Did you enjoy today's class?
6	気を付けて。	Take care.
7	さようなら。	Goodbye.
8	また [月曜日に／来週／次回] 会いましょう。	See you [on Monday/ next week / next time].
9	良い週末を。	Have a nice weekend.



ほめる (PRAISING)

1	正解です！	That's right!
2	よくできました！	Good! / Great! / Good job! / Well done!
3	いいアイデアですね！	Good idea!
4	素晴らしい！／ いいね！	Wonderful! / Excellent! / Fantastic! / Super! / Perfect! / (That's) Nice!
5	がんばりましたね！	You did a good job!
6	おめでとう！	Congratulations!
7	よくやっていますね。	You're doing [fine/ well / great].
8	(どうも) ありがとう。	Thank you (very much). / Thanks (a lot).
9	〔彼／彼女〕に拍手しましょう。	Let's give [him/ her] a big hand.
10	手伝ってくれてありがとう。	Thank you for your help.



励ます (ENCOURAGING)

1	あきらめないで。	Don't give up.
2	心配しないで。	Don't worry.
3	よくがんばったね！	Nice try! / Good try!
4	惜しい！	Close! / Almost!
5	もう一度 [やりなさい／言いなさい]。	[Try / Say] it again. / Once more. / One more time.
6	がんばって！	Good luck! / Do your best.
7	その調子！	Keep it up!
8	君ならできるよ。	You can do it.
9	恥ずかしがらないで。	Don't be shy.
10	それでいいですよ！	That's good!
11	落ち着いて。	Take it easy. / Relax.
12	焦らないで。	Take your time. / Don't rush.

このほかにも、さまざまな「クラスルーム・イングリッシュ」の表現が『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』P.118～123に掲載されています。音声は文部科学省/mextchannelにて視聴することも可能です。



『小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック』より「6 実習編」



クラスルーム・イングリッシュ～小学校外国語活動・外国語研修ガイドブック

『主体的・対話的で深い学び』

を実現する授業づくり

いよいよ来年度「小学校学習指導要領」が全面実施され、「主体的・対話的で深い学び」の実現（「アクティブ・ラーニング」の視点からの授業改善）に向けた小・中・高等学校の新たな教育課程が始まります。この「主体的・対話的で深い学び」を促すには、教師が児童生徒にさまざまな目的に関わり、効果的に学びを支援していく必要があります。英語の授業におけるこうした「支援」、特に「深い学び」をどのように促すかについて考えます。



愛知県立大学外国語学部
池田 周 教授

「学びの質」を高める授業改善と
教師の支援としての発問

「学びの質」に着目した授業改善に向けて

今回の学習指導要領改訂において、児童や生徒自身が「学びの意義を自覚する手掛かり」を見だし、「身に付けるべき資質・能力や学ぶべき内容などの全体像」を分かりやすく見渡せるような「学びの地図」としての役割を果たすように、右の6つの視点からその枠組みの改善が行われました。

このうち③の「どのように学ぶか」という視点は具体的な児童生徒の学びの姿に関わり、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指すものです。学習指導要領改訂に向けた審議のなかで、一時「アクティブ・ラーニング」という用語に注目が集まり、児童生徒をペアやグループでアクティブに取り組ませる学習活動（言語活動、観察・実験、問題解決的な学習等）を含めることが、授業改善で求められる指導や学習の「型」とであると捉えられ、表面的で狭い意味での指導法や技術の改善に終始してしまうことが懸念さ

れました。そのため、児童生徒が「学習内容を深く理解し、必要な資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにする」には、

「学びの質」を高める授業改善の取り組みを活性化することが必要であるという思いが、この「主体的・対話的で深い学び」に込められています。

① 「何ができるようになるか」

（育成を目指す資質・能力）

② 「何を学ぶか」

（教科等を学ぶ意義と、教科等間・学校段階間のつながりを踏まえた教育課程の編成）

③ 「どのように学ぶか」

（各教科等の指導計画の作成と実施、学習・指導の改善・充実）

④ 「子供一人一人の発達をどのように支援するか」

（子供の発達を踏まえた指導）

⑤ 「何が身に付いたか」

（学習評価の充実）

⑥ 「実施するために何が必要か」

（学習指導要領等の理念を実現するために必要な方策）

中央教育審議会、平成28年12月「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）」より

02 「主体的・対話的で深い学び」と教師の支援

「答申」によれば、「主体的・対話的で深い学び」は、学びの本質として重要な、3つの固有の視点に分けられます。これらのうち、「主体的な学び」と「対話的な学び」については「アクティブ・ラーニング」として目指されてきたものと重なるところがありますが、特に「学びの質」に着目した授業改善の特徴が濃く

読み取れるのは「深い学び」の視点です。「学習指導要領「総則編」」によると、「深い学び」には、教科ごとの「見方・考え方」[※]を働かせることが必要です。この「見方・考え方」は、各教科等の特質に応じて「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」を表すものであることから、それを児童

生徒に自由に働かせるようにすることには、その教科等を担当する教師の専門性が発揮されるのです。

※「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」は、「外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること」と表されています。

03 学びの支援としての教師発話

上記を踏まえ、「学びの質的な深まり」に注目した授業改善を行うためには、教師が「主体的・対話的で深い学び」の目指すものを十分に理解したうえで、児童生徒一人一人の興味や関心、能力や

適性、発達や学習の課題などを踏まえて、英語教員としての専門的知識・技能を生かしながら「学びに関わっていく（＝支援していく）」ことが求められます。例えば、言語活動を行う際の支援と

しては以下の5つのようなものがあり、学習者の実態や学習過程における必要性に応じて柔軟に工夫しながら、学習過程のあらゆる段階で行うことが可能とされています。

- ① 話す速度を落としたり、一度にたくさんの情報を伝えるのではなく分けて伝えたりする（「聞くこと」）
- ② 理解が難しい語彙や表現が含まれている場合に簡単なもの書き換える（「読むこと」）
- ③ 対話の例を示すため教師が実際のやり取りを見せる（「話すこと【やり取り】」）
- ④ 発表の事前準備として、グループで話し合わせたり、アウトラインを書かせたりする（「話すこと【発表】」）
- ⑤ 書く活動を行うに当たって有用な語彙や表現を示す（「書くこと」）

など

高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説「外国語編 英語編」より

このように、活動の認知的負荷への配慮や学習過程の調整などさまざまな支援の形があるなかで、英語の授業を担当する教師が自身の専門性を生かしながら行うものとして重要なのは、やはり学習対象でもある「ことば」を用いて児童生徒の学びの深まりに関わっていくことだと私は考えています。授業において教師は、学習事項の提示、説明、発問、指示、理解の確認など、さまざまな目的・意図で児童生徒に語りかけたり、問いかけたり、やり取りを行ったりします。しかし、ペアやグループでの児童生徒の自主的な活動を尊重するあまり、教師が

「ことば」で働きかけを行うことに対して消極的になっているように感じられることがあります。確かに、児童生徒の活動「量」を増やすという観点からは、教師の指示や発言の「量」を最小限にしようと意識することは必要かもしれません。しかし、「深い学び」の観点からは、教師が「ことば」による支援を積極的にに行い、児童生徒の思考プロセスにしっかりと関わることが大切なのです。この「積極的」とはもちろん、単に「頻度が高く」「量が多い」ことを指すのではなく、学びの目的や児童生徒の習得状況に応じて「適切な」支援を「常に考え、調整しながら」

組み込むという意味です。

教師発話のうち、授業運営のための指示や雰囲気づくりに役立つ賞賛など「決まった表現」であるクラスルーム・イングリッシュの使用は、まだ既習の語句や表現が非常に限られている小学校の「外国語活動」や「外国語」でも有効ですが、これだけでは「学びの質的な深まり」につながる教師発話とは言えません。私が注目したいのは、教師が児童生徒の「主体的・対話的で深い学び」を引き出すために、どのような「問いかけ」を行うのか、すなわち「発問」の効果的な利用です。

④ 「発問」をしっかりと機能させるために

教師の「発問」は学習目標や児童生徒の学びの状況に応じて、意図的に目的を持って計画され、授業の流れのなかで適宜修正しながら行われるものです。単元や学習内容のまとまりのなかで、いつ、どのタイミングで、どのような形式の問いかけをするかまで、十分に

検討されていなければなりません。すなわち、教材や児童生徒に対する教師の理解が、発問の有効性に影響します。授業計画を立てる際には、一連の発問をどのように組み立てて児童生徒の内容理解や言語活動の質的な深まりを促すかを、しっかりと検討しましょう。予

想される児童生徒の答えごとに、それをしっかりと受け止めてどのように反応（リアクション）するかまで考えておきたいものです。教師の「発問」が効果的に機能しているかを振り返るための視点には、以下のようなものがあります。

① 発問が、しっかりと児童生徒に理解されているか

問い自体が簡潔で明瞭であることも重要ですが、児童生徒の様子に応じて、答えを考えさせる前に「何について問われているのか」「何が求められているのか」を互いに確認させることが必要です。答え方についても、常に児童生徒に口頭で表現させるのではなく、答えの選択肢を与えて選ばせたり、答えを各自書き出させてからペアやグループ内で共有してコメントし合ったりするなど、発問の目的や内容、形式に適切なほかの方法を組み込むことにより授業の流れに変化をつけることもできます。

【例】 ***Do you understand this question? / Is this question clear to you? (Do you have) any question about what you have to do?***

② 児童生徒が発問を理解したあとに、十分に考える時間を設けているか

教師が発問をする前に、答える児童生徒を指名する場面を見ますが、これではほかの児童生徒の考える意欲を奪ってしまいます。「発問 → クラス全員が考える時間の確保 → 答える児童・生徒の指名」という順番に留意します。また、ペアやグループ活動を意識して、発問後にすぐ「ではペアで話し合ってみましょう」という指示が出されることがありますが、まずは児童生徒が「それぞれ自分で」考える時間を与えることが重要です。各自が自分の意見や考えをまとめておけば、ほかの児童生徒の発言に対して、自分の考えと比較して類似点や相違点といった観点からコメントを続けやすくなります。

【例】 ***Now, think about this (question) by yourself first. I'll give you three minutes.***

③ 発問の種類バランスは良いか

読んだり聞いたりしたテキストに含まれる情報を問う「事実発問 (factual questions)」や、直接述べられていない情報に関わる「推論発問 (inferential questions)」など、発問の種類バランスが保たれているかを確認しましょう。「事実発問」はテキストの表層的な理解にとどまるという指摘がありますが、内容理解の基礎として重要です。「推論発問」はテキストの情報からどの程度推論可能かによって認知的負荷が変わるため、「何をどこまで推測させたいのか」など、その目的を十分に検討しておくことが大切です。また、Yes / No で答えたり、選択肢から答えを選んだりする「クローズド・クエスチョン (closed question)」よりも、答えを限定しない「オープン・クエスチョン (open question)」の方が、児童生徒の深い思考を促すだけでなく、答えのなかから学びの状況に関する情報をより多く引き出すことができます。

【例】 ***As a reader, what do you think is the most important message from the author? Why did this happen? Is this clearly stated in the text?***

④ 発問に対する児童生徒の答えにしっかりと耳を傾けているか

これは児童生徒一人一人に応じた指導の基本です。良い答えや発言には“Excellent!” “That’s right!”などと、賞賛をはっきり示しましょう。児童生徒の不安を和らげるための表情やジェスチャー、相づちや声かけなども大切です。答えの内容だけでなく、語彙や構文など表現についても細かい部分まで聞き取り、適切な対応を行います。期待とは異なる答えが出た場合にも、発問を繰り返したり、より分かりやすい表現に言い換えたりして、もう一度考えるように促します。児童生徒が伝えたいことを適切に表せない場合には、別の表現への言い換えを考えさせたり、具体例を挙げるよう促したりすることもできます。

【例】 ***I'll put it another way. [Let me put it another way.] Can you rephrase it? / Can you think of any examples of this?***

発問は、ある程度難易度の高い語句や表現を習得してからでないと導入できないわけではありません。小学校高学年でも、何度も音声で慣れ親しんできた表現を別の場面で想起し、活用しながら対話の継続の仕方を学ぶ Small Talk などの言語活動に組み込むことができます。

例えば、「好きなスポーツ」についての対話のなかで、“I like baseball.”という児童Aの発話に対して、教師はまず“Oh, you like baseball. Nice. (Me, too. I like baseball.)”とリアクションしますが、これに続ける問いかけを、目的に応じて以下のように変えることができます。

① 同じ児童Aに対し“Can you play baseball?”と問いかけ、「別の既習表現の理解と産出」を促す

② 別の児童Bに対し、児童Aとの対話と同じ「トピック」（野球）を引き継いで“How about you, B? Do you like baseball?”と問いかけ、そこから新たな対話を始める〔返答がNo. の場合はトピックのカテゴリーを広げ“No, you don't. O.K., then, what sport do you like?”のように続ける〕

③ 別の児童Cに対し“How about you, C? What sport do you like?”と問い

かけ、児童Aと同じ「構文」(I like)を用いた発話を引き出す

④ 同じ児童Aに対し“Why?”や“Can you tell me more?”と問いかけ、「前の発話を補う詳細な内容」（野球が好きな理由）を“(Because) I can run fast.”“(Because) it's exciting!”といった既習表現で引き出し、対話の「内容の深まり」を促す

このように、引き出したい内容や既習表現に応じて発問を変えながら次々と児童に問いかけることにより、学習内容の定着や、即興的な応答を促すことを目指します。さらに中学校や高等学校段階になれば、語句や表現も豊かになり始めるため、読んだり、聞いたりしたことの「より深い理解」を確認する発問を行うことができます。

【発問例】
《テキストの要点》
What is the main idea of this text? / What do you think is the most important part of the author's message?

《テキストの概要》
What is this text about? / Can you summarize the text?

《書き手の意図》
What is the aim [intention, purpose] of the author? / Why did the author write this passage? / What does the author want you to understand? / What does the author want to tell you most?

《読み手（聞き手）にとっての要点》
What did you learn from this passage? / As a reader, which sentence [part] is the most important?

これらは一般的な発問例ですが、個々のテキスト内容に応じて「より深い思考」へと導くために、具体的な発問を考えて取り入れることが大切です。

教師が児童生徒とやり取りをするなかで投げかける「ことば」が、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために周到に計画された一連の発問であり、それらにより形成的な学びの見取りが行われていくような授業改善に取り組んでいくことが、新課程目今の今、求められています。

ゆっくりで構いません。児童生徒の「ことば」を丁寧に聞き取り、それを受け、目的を持った「問いかけ」をしてみることから始めましょう。



池田 周 (いけだ・ちか)

愛知県立大学外国語学部教授。英国ウォーリック大学博士課程修了。博士（英語教育・応用言語学）。小学校英語教育学会愛知支部理事。文部科学省「小学校の新たな外国語教育における補助教材の検証及び新教材の開発に関する検討委員会」委員を務めた。主な研究テーマは、外国語としての英語リテラシー習得、小・中・高等学校を通じた外国語教育のあり方、国語科と外国語科の連携。小・中・高等学校で幅広く教員研修やセミナー・ワークショップなどを行う。



by 安河内 哲也 先生

生徒が自分の考えや気持ちをやり取りする言語活動に慣れ親しむために、毎回の授業で継続的に、短時間で行う「帯活動」は有効です。創造性を発揮し、工夫を凝らした帯活動を取り入れていらっしゃる先生も多いことでしょう。ここでは、安河内哲也先生（一般財団法人実用英語推進機構代表理事）が実践している「英語の授業が楽しくなる、4技能を統合した帯活動」を、動画とともに紹介します。今日から「オビカツ」始めてみませんか。

「ロールプレイアクティビティ」と
「図形再現アクティビティ」を紹介します。

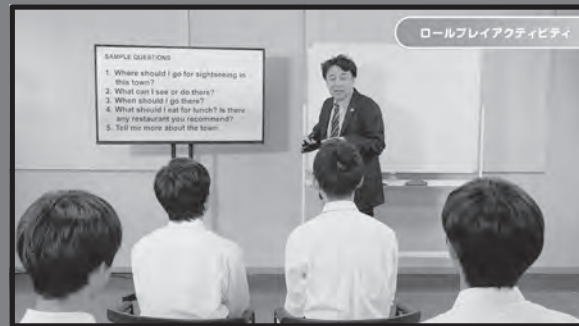


安河内 哲也 先生
一般財団法人実用英語推進機構代表理事、東進ハイスクール、東進ビジネススクール英語講師。文部科学省「英語教育の在り方に関する有識者会議」委員を務める。英語学習の楽しさを世に広めるべく、テレビ番組などでも大活躍中。英検1級など英語関連の多数の資格を持つことでも知られる。

オビカツ 01: ロールプレイアクティビティ



『英語情報』専用アプリで動画が見られます。
(アプリの詳細は表紙の裏面へ)



ある状況設定のなかで、登場人物になりきり会話をします。ポイントは「ある状況設定」ということです。例えば、教科書本文に登場する主人公とインタビューになりきって、インタビューをしてみてもよいでしょう。教科書の言語材料を使って復習するような活動がおすすめです。

CAN-DO

状況に応じた適切な質問をすることができる
質問に適切に答え、情報を提供することができる
会話に継続的に貢献することができる

活用ポイント

教科書の本文に関連する状況を設定し、教科書の登場人物になりきるようにすれば、教科書で学んだ語彙や表現を会話のなかで使うことができます。読解したり、聞いたりしてインプットした内容をアウトプットすることで、4技能を融合して指導することができます。

80
sec

1. 活動内容を紹介する

A: You are a foreign tourist. You came to this town for the first time and want to know where to go for sightseeing.
B: You are a local citizen. You will introduce some tourist attractions of your town and explain why he/she should go there.

観光客：パートナーに観光スポットに関する質問をしてください。ヒントを使ってもよいし、使わなくてもかまいません。
地元の人：観光スポットを数えてあげてください。どうしてそこへ行くべきなのか、何があるのかなどの情報を添えてください。

外国人観光客役（A）、地元の人役（B）の設定を英語で説明してください。生徒の理解を促すためにも、皆さんの学校のある地域に応じた観光スポットを例示するとよいでしょう。

【指示例】

If you are person A, you are a foreign tourist. You have come to this town for the first time and want to know where to go for sightseeing.

If you are person B, you are a local citizen. You will introduce some tourist attractions of your town and explain why he/she should go there, alright?

Everybody stand up!

90
sec

2. 質問と応答の表現を理解する

SAMPLE QUESTIONS

1. Where should I go for sightseeing in this town?
2. What can I see or do there?
3. When should I go there?
4. What should I eat for lunch? Is there any restaurant you recommend?
5. Tell me more about the town.

まず、先生と生徒でデモンストレーションをして見せ、生徒に外国人観光客役として質問をさせます。先生は生徒が活動するときの参考になるよう応答例を示します。

【会話例】

先生：I am a Fukuoka citizen and you ask me the first question.

生徒：Where should I go for sightseeing in this town?
/ Where else should I go or visit?

先生：In Fukuoka, you should go to Fukuoka Tower.
(…以下、残りの4つの質問例を使ってやり取りをします)

100
sec

3. ペアで役を決めてなりきる

ROCK-PAPER-SCISSORS

勝った人：地元の案内者
負けた人：外国人訪問者

じゃんけんで勝った人が地元の人役、負けた人が外国人観光客役となります。必ずしも例示した質問を使わなくてもよく、自分で考えた質問をしても構いません。

【指示例】

You ask each other these five questions for one minute. You don't have to use these five questions. These are just sample questions and you can create on your own questions.

One of you come to Tokyo for the first time. You can make up a country you come from.

Enjoy your conversation, alright? ROCK-PAPER-SCISSORS go!

「間違いを恐れず話すことが大切」だと生徒に伝えましょう

生徒たちが自分で考えたことを、自分の言葉で表現することは大変なことです。しかし、このような活動を通して「伝えたいことがうまく伝えられない」というもどかしさを感じる経験が、生徒にとっては大切なことだと思います。たとえ教科書などの英文を読み、単語や内容を理解する力はあっても、英語を話すとなると案外、思うようには話せないものです。その際、生徒には“You can make mistakes!”と声を掛け、完璧に話そうとしなくてもよいこと、間違えてもいいことを伝えましょう。初めは間違えてもいいのです。英語を使って話していくうちに、自分が話したいことを伝えるために必要な語彙や表現、文法を学ぼうという意欲が湧いてきます。

このような活動を通じて、授業中に生徒自身が話す機会をたくさんつくっていきましょう。そして、教科書などで読んだり、聞いたりしたことを話してみる、話したことを書いてみる。4技能を統合した言語活動を授業に取り入れ、生徒の英語力を高めていきましょう。

90
sec

4. 60秒間やり取りをする

1. Where should I go for sightseeing in this town?
2. What can I see or do there?
3. When should I go there?
4. What should I eat for lunch? Is there any restaurant you recommend?
5. Tell me more about the town.

60 SECONDS

役になりきり、ペアで60秒間活動をします。外国人観光客役から声を掛けて会話を始めます。使用する表現をあらかじめ練習してから活動を始めるとよいでしょう。

【指示例】

Now, everybody, stand up and get ready! Face each other and start the conversation with this expression.

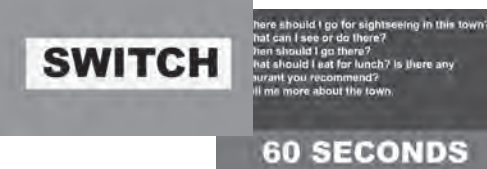
“May I ask you some questions?”

Let's practice! “May I ask you some questions?”

Are you ready? Here we go!

80
sec

5. 役を交代して再び活動する



60秒間で活動が終了したら、がんばった生徒たちを褒めたたえることを忘れずに。役を交代して再び活動したら、ペア同士で感謝の気持ちを伝えます。最後に生徒全員を褒めてあげましょう。

【指示例】

OK! Great! Big hand!

Now, you switch your role. Everyone, are you ready?

Here we go!

(活動を終えたら)

Alright! Big hand! Say thank you to your partner. You did a wonderful job! You did it, yeah!

「ロールプレイアクティビティ」で使用したスライド
をこちらからダウンロードすることができます！



オビカツ 02: 図形再現アクティビティ



『英語情報』専用アプリで動画が見られます。
(アプリの詳細は表紙の裏面へ)



一人が目をつせた（閉じた）状態で、ある図形をもう一人が見て記憶し、時間内に伝えます。聞き手はその図形を紙の上に再現します。ここでは図形を使用しますが、教科書に出てきた写真や絵などを使用しても構いません。使用する図形や写真を複雑にするほど、難易度が上がりますが、小学校でも三角形や円などの図形を用いて、左右や中央などの位置関係を表現することもできますでしょう。

CAN-DO

形や位置関係を表す表現を的確に使用することができる
形や位置関係を表す表現を的確に聞き取ることができる

活用ポイント

図形を表す言葉や前置詞を正確に使う練習をします。再現するためには、それらの正確な使用と理解が求められます。図形の複雑度でどのようにでも難易度を調整することができます、盛り上がるアクティビティです。oval、angle など、表現に必要な単語を先にフィードしておくのもよいでしょう。

20
sec

1. 活動内容を説明する



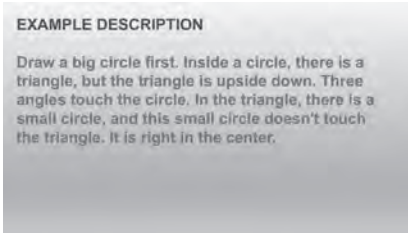
「説明者は図形を10秒間で記憶し、45秒間でパートナーに英語で描写する。聞き手は注意深く聞き取り、紙に図形を描く」ということを英語で説明します。

【指示例】

In this activity, you have to describe something like this to your partner. And your partner draws the picture like this, listening to your description. You have 45 seconds to describe the drawing. This might be a bit too difficult for you but just learn from this description.

60
sec

2. 描写する表現例を紹介する



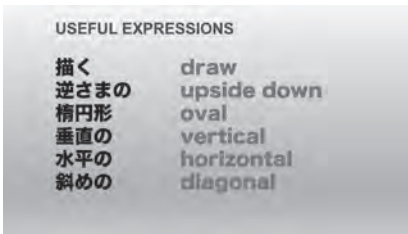
先生が描写する表現例を紹介し、実際に図形を描いてみせ、合っているかを確認します。その際に形や位置関係を表す表現を使い、ペアでの活動中に使えるように慣れておきましょう。

【指示例】

Draw a big circle first. Inside a circle, there is a triangle, but the triangle is upside down. Three angles touch the circle. In the triangle, there is a small circle, and this small circle doesn't touch the triangle. It is right in the center.
Let's check!

150
sec

3. 使用する表現を示す



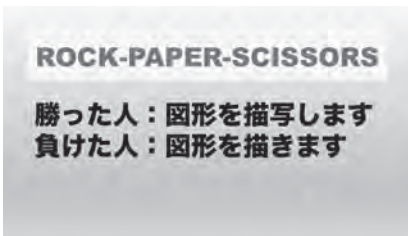
覚えておくと思える表現を紹介し、声に出して練習します。なるべく英語で意味を定義付け、理解できるようにしましょう。

【指示例】

Before starting, let's check these expressions or vocabulary words : draw, upside down, oval, vertical, horizontal, diagonal

30
sec

4. 役を決める



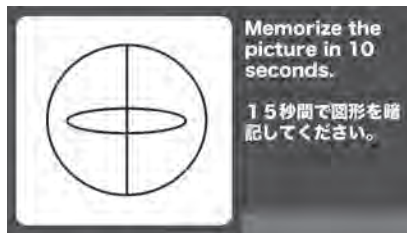
じゃんけんして勝った人は図形を描写し、負けた人は勝った人が描写する内容を注意深く聞き取り、紙に図形を描きます。

【指示例】

You can use these expressions, but you should never use your fingers. No gestures. ROCK-PAPER-SCISSORS, go!
OK, Winners, raise your hands! You look at a drawing and describe the drawing to your partner. And people who lost? You listen to your partner and draw the picture, OK?
So, get your pen and notebook, already?

35
sec

5. 15秒間で図形を記憶する



聞き手はまず目を閉じます。説明者は画面に表示された図形を15秒間で記憶します。どのように表現するかを考えながら記憶するとよいでしょう。

【指示例】

People who lost, put your hands on your eyes. / Cover your eyes.
Winners, memorize this one. Don't draw now. Just memorize.

100
sec

6. 45秒間で図形を描く



説明者は45秒間で記憶した図形を描写して、パートナーに伝えます。聞き手は聞き取った内容に応じて紙に図形を描きます。図形や位置関係を表す表現を活用しましょう。

【指示例】

OK, open your eyes. People who describe the pictures, hold your hands behind your back. Now, you have 45 seconds. Everyone, are you ready? Here we go!

40
sec

7. 答えを確認する



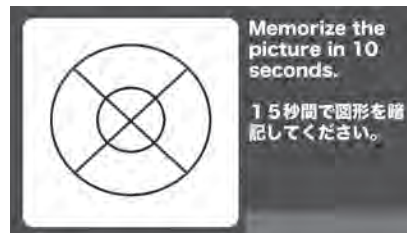
答えの図形を画面に表示する。生徒たちが描いた図形が正しかったかを確認し、正解した生徒はもちろん、間違えた生徒もがんばったことを褒めてあげましょう。

【指示例】

OK! Now you finish.
Look at this.
Oh, you missed just one thing, but you did a wonderful job. Great!! Big hand for your partner.

30
sec

8. 役を交代して再び活動する



説明者と聞き手の役を交代して、再び活動します。聞き手が目を閉じ、説明者は15秒間で図形を記憶します。

【指示例】

OK, switch! Cover your eyes.
Memorize this one. This one is very difficult.

90
sec

9. 45秒間で描く



同様に、45秒間で説明者は記憶した図形を描写し、聞き手はその内容に応じて図形をノートに描きます。

【指示例】

OK, open your eyes! Now it's your turn.
Hold your hands on your back. OK! Get ready! Let's go!

50
sec

10. 答えを確認する



答えの図形を画面に表示する。生徒たちが描いた図形が正しかったかを確認し、再び、正解した生徒はもちろん、間違えた生徒もがんばったことを褒めてあげましょう。

【指示例】

Now let's check if your answer is correct or not.
The answer is ... oh, you are correct! And you are correct, you are ... perfect!
Everybody, you did it! Yeah!



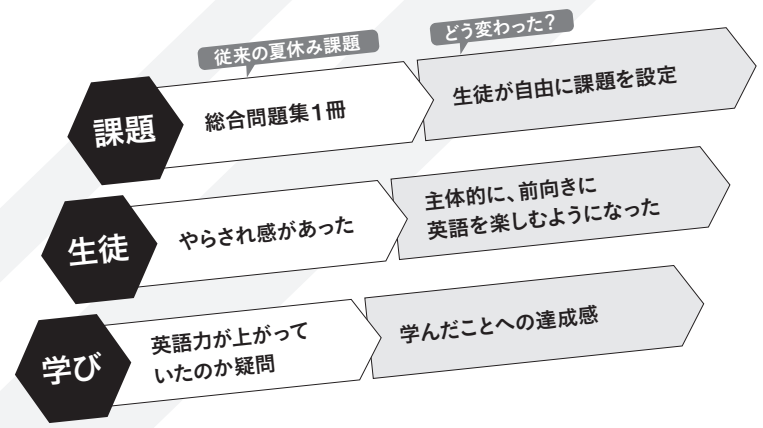
生徒の学び

が変わった

☆を变えたら、

夏休み課題

新潟県立新発田高等学校の挑戦



皆さんの学校では、夏休みや冬休みなどの長期休業中にどのような課題を出しているだろうか。「例年にならって問題集を1冊与えているだけで本当にいいのだろうか」と疑問を持ち、夏休み課題を「生徒が自由に英語と向き合って学ぶ取り組み」へと変えた学校がある。新潟県立新発田高等学校2年生の英語科教員たちがこの夏、初めて生徒に課したのは、「英語を楽しむ」ことを目的とした学びだった。

疑問から始まった課題の見直し

新発田高校の夏休みは7月30日から8月25日まで。例年であれば、6～7月頃に学校出入りの書店に、夏休み課題用の教材を注文する。だが、2年生となり英語力の差が開いてきた現状に対し、生徒に英語力を付けるためには、これまで同様に時事問題をテーマとする総合問題集を1冊提示するだけで本当によいのか。学習して覚えた英語を実際に使えるようになるのか。生徒によっては自力で全てを解き終えることができず、解答を写してくるだけということもあ

るかもしれない。あるいは、実用英語技能検定（英検）準1級以上の英語力を持つ生徒には、物足りない内容であるかもしれない。実際に生徒たちにとって、この問題集は「やらされている」気持ちが強くないのか。自ら学びたいと思って取り組める課題になっているのか。2年生を担当する根立望先生は疑問を感じていた。そして、同じく2年生を担当する廣澤卓郎先生と村山真優先生に相談を持ち掛けた。思いは同じだった。新発田高校の2年生にとって、ふさ

わしい課題とは何か。3人で立ち止まり、改めて課題のあり方を考えたとき、「生徒には英語を楽しんで学んでほしい」「本物の英語に触れてほしい」という共通の思いが浮かび上がった。そして、「英語が大好きな自分たちが、日頃からどのように英語を学んでいるのかを伝えることで、生徒自身が楽しく英語を学ぶことにつなげたい。そうして、生徒が主体的に課題に取り組むことで、自律的な学習者になってほしい」と、従来の課題をやめて新しい課題へと方向転換した。

生徒が自分で選んで取り組む課題への転換

まず、生徒たちには下表のような夏休み課題が「英語科通信」で提示された。共通課題には全員が必ず取り組み、選択課題は具体例で示されている内容を参考に、生徒自身が、興味・関心のある分野の学習、弱点を克服するための学習、得意なことをさらに伸ばすための学習など、自分で課題を設定して3週間かけて取り組む。しかし、取り組んだ課題の提出は必須とはしていない。今回の課題の評価は点数化をせず、コメントを付けてポジティブなフィードバックをすることで、生徒のモチベーションへとつなげることをねらった。ただし、夏休み明けの課題考査では、Writingで「私が夏休みに取り組んだ英語学習」をタイトルに、60～80語の英作文を書かせることとした。生徒たちには夏休み課題とともに課題考査の出題範囲が示されており、自ら設定した課題とその取り組みについて英語で記述

できるように準備をして臨む。
生徒が前向きに英語と向き合った
「本当にこのような課題を出してもよいのか」「何が提出されるのか」「考査の英作文には、どのようなことが書かれるのか」と不安はよぎった。だが、とにかく生徒を信じた。日頃の授業で教科書を題材として、理由や例示をしながら自分の意見を述べ合う表現活動をしているのだから、生徒たちならできるはずだと。そして、自分で課題を設定して取り組むことに生徒たちの驚きはなかった。実際、課題考査の英作文には生徒たちの達成感がにじみ出ている。「英語の勉強の仕方がいろいろとあると分かった」「この学習法を続けたい」「友達にも勧めたい」といった記述が多く見られた。なかには、1学期に教科書で学んだ比較の表現を、“It was more interesting than I had expected.”のように、自分

の考えを伝えるために使えるようになった生徒もいた。
同校では、冬休みにも同様の課題を提示するため、提出された課題を参考例として、「英語科通信」などでシェアし、授業では生徒同士で自分が取り組んだ課題について伝え合う活動をする予定だ。そうすることで今回は満足のいく取り組みができなかった生徒も、冬休みには工夫して取り組むはずだ。繰り返し取り組むことで、生徒たちが意欲的に英語と向き合い、主体的に学びを深めていくことを期待している。
「中学校でも、進学校でも、そうでなくても、どのような学校であってもできる課題だと思います。生徒を褒めることもでき、生徒たちの学びに感動します。勇気を出して課題を変えて良かったと思います。教員が一步を踏み出すことの大切さに気付かされました」と先生方は口をそろえた。

夏休み課題		課題内容	提出の有無など
共通課題		Focus on Listening Training 3-13 (P 6-27 および P 46-56)	あり（課題考査日に提出） 課題考査出題はあり
		『でる順パス単』（P 140-154） 1081-1179（99語）	なし 課題考査出題はあり
共通課題の他に3週間自分で英語の力をつけるために、できることを考えて実行しましょう。課題の具体例を以下に掲載します。授業がなく、まとまった時間が取れる夏休みを利用してしっかり英語力を磨きたいものです。			
選択課題 の具体例	Reading	☐ 多読 ☐ 洋書読破 ☐ 英字新聞 ☐ 探究活動のテーマに関する研究や論文を英語で読む（読んだ内容と感想をノートに記す）	提出ができる物（ノートに書いた感想やスピーチなど）は、課題考査後に共通課題と一緒に提出すること
	Listening	☐ TED Talk ☐ ラジオ英会話（7/29 Start） ☐ 映画・ドラマを字幕なしor英語字幕で見る	
	Speaking	☐ シャドーイング ☐ 洋楽を歌う ☐ 通訳ボランティア ☐ 自分で選んだスピーチの完コピ	
	Writing	☐ でる単の単語をイラストにするor例文作り ☐ 英語で日記をつける ☐ SNSに英語でコメントする ☐ スピーチやエッセイコンテストの作品を書く	
	資格・検定	☐ 英検対策問題集 ☐ 志望校の過去問を解く	

洋画を視聴しレビューを書く

洋画『レ・ミゼラブル』を英語字幕を表示するなどして繰り返し視聴し、感じたことや理解したことについてレビューを英語で書いた。

取り組みの良かった点

好きな映画を英語で繰り返し視聴したり、英語の字幕で視聴したりと、生徒によって多様な取り組みが報告されました。セリフが聞き取れた時にもっと聞けるようにリスニング力を伸ばしたいという欲求が生まれたようです。

生徒の変容

テレビでも英語でドラマを視聴することが好きになったようです。ネイティブ同士の速いやり取りでも、話されているセリフが聞き取れる、状況が理解できるとうれしい、自分のリスニング力が向上していると感じているそうです。

Movies review

8/5 "Les Misérables"

I watched "Les Misérables" because I like the music that he sang in it. I thought it was thoughtful movie. "Les Misérables" became twice before it. So, the movie which I saw was third "Les Misérables". The main character is Jean Valjean. At first, he had been prisoner. After provisional release, he escaped the police. Ten years later, he became mayor lying his social position and met one woman. Her name was Fantine, but she died before meeting each other. So, he decided to grow her daughter, Cosette. But he wasn't tell her his past. He gradually be worried it. In Insurrection republicaine de paris en juin 1832 called "6月革命". In Japan, Cosette met Marius who was young man. After that, they married. It looked very happy, but, Jean left Cosette because of his guilt ridden. In last scene, Jean died being present by Cosette and Marius who discovered Jean. But, I thought it wasn't happy end. Jean help many people include his rival, the police, Javert. But Jean believed "I'm criminal" until the last. He might be worry about being said "Criminal have to be judge under the law" by Javert. I thought this story is quite sad but very interesting. So, I want to watch it again if I have time.

映画について感想が述べられています。

単語学習

単語をイメージするイラストを添えて、単語と意味を書き記した。英語での定義付けをする生徒もいた。

取り組みの良かった点

英単語をイメージで捉え、イラストやフレーズで表現することで習得しようと試みています。1冊の英単語帳が仕上がりました。

生徒の変容

「前に担当の先生から教わったこの方法で続けた。英語をシンプルにイラスト化しようとする過程で、より印象に残るのだと思う」と生徒は述べています。以前は、ノートに単語をひらすら書くという方法で単語を覚えようとしていたそうですが、今後はこの方法で語彙を増やしたいそうです。



単語だけではなくフレーズでイメージしています。

英検準1級・入試問題ライティング問題

英作文が好きな生徒は、英検や入試問題などのライティング問題に取り組み、トピックに対する自分の考えを英語で表現することに取り組んだ。分からない単語はマーカーで着色して意味を添えるなどの工夫もしている。

取り組みの良かった点

英作文を書く力を向上させたいと考え、「夏休み中に30問英作文に取り組む」という目標を設定し取り組みました。英検準1級の過去問題や入試問題などからさまざまなテーマについて賛成・反対の立場を明確にして理由を述べています。

生徒の変容

英作文を書くことや模範解答を読むことから語彙を増強することができ、達成感を感じているようです。英検準1級に挑戦する予定です。

私は今何かに悩んでいる。 (検)
100年9月のために必ず残したいものを残さず。 (2009 広島)

I want to leave my home.
One reason is that population of Anashima is generally decreasing year by year and empty houses are increasing. Maybe these houses will not be after 100 years. It means that things that our ancestor had built disappear.
So I want to leave evidence that ancestor including me existed. (Reina) I like your idea. This is wonderful!
Another reason is that there will be a lot of change compared to now. It is not bad thing but I hope present street continue to exist because there is very valuable. (why do you think it valuable?)
In conclusion, I wish my home lies on Anashima and my children live there. 77
preserve. 94 保存する
people a hundred years from now 100年後の人々

模範解答と比較して、作文を書く際に使える単語やフレーズも書いています。

ハーバード大学サマーセミナー

英検1級レベルの英語力を持つ生徒が夏休み中に参加した、ハーバード大学のサマーセミナーでの学びと経験を英文でまとめた。

取り組みの良かった点

海外進学を視野に入れていることもあり、自分から「ハーバード大学サマーセミナー」に申し込みをするなど、意欲的に英語をツールとして学ぶことができています。

生徒の変容

普段取り組むことができないことを課題として設定しました。そしてその課題に挑戦したことで、進路実現に向けての気持ちがさらに高まっています。

Please answer all questions in your own words. Don't copy quotes from the article or a classmate. Try to answer the question in a way your classmates would understand (i.e. not using too technical language). Keep your responses brief and on-point (1-3 sentences).
Name: 27

Question 1 (1 pt). What effect does visual deprivation early in life have on visual ability? What does that suggest about the development of the brain?
Visual deprivation early in life alters anatomical patterning and physiological effectiveness of these projections with concomitant reductions in visual ability.

Question 2 (1 pt). What is the main question tested in this paper?
Whether or not and how sensory inputs specify the perceptual modality of the visual cortex.

Question 3 (1 pt). In Figure 1: Briefly describe how the animals were rewired. Be sure to include which hemispheres was a control and which was rewired.
The visual projections are directed to the auditory pathway, providing inputs of one sensory modality to the thalamus & cortical targets. The thalamocortical control & MGM was rewired.

Question 4 (2 pts). Give two functional features that develop in rewired MGN after development (this is from the previous work).
Cells in rewired A1 display visual properties such as orientation selectivity and direction selectivity. They also encode a two dimensional map of visual space and orientation of selective cells.

これらの質問に解答をするにあたり、オンライン講義の受講と論文2題を読まなくてはならなかったそうです。質問のページも複数ページあります。

一人一人の夢や個性を大切

「学力」というモノサシだけで生徒を測る画一的な教育ではなく、生徒一人一人が夢や目標を見つけて成長していく可能性を信じる「オンリーワン教育」を大切にする。それが興國高等学校の教育の方針だ。祖父が創立し、祖父から父へと受け継がれた学園で、男子教育にこだわり、専願者だけでも募集定員を上回るほどの人気校となった同校が目指す教育について、理事長・校長を務める草島葉子先生にお話を伺った。

学校法人興國学園 興國高等学校

草島 葉子 理事長・校長

大阪府出身。神戸女学院大学文学部卒業後、高校教員を経て、人材派遣、研修会社で育成や研修企画、コンサルティングに携わり、JRやNTTなどを担当。松下幸之助が創設したPHP研究所で研修講師を務めた。1997年、祖父・惣治郎氏が創立し、父・一氏が理事長・校長を務める興國学園の常任理事に就任。事務局長、副校長を経て、2013年学園理事長・校長に就任。大阪教育大学夜間大学院スクールリーダーコース講師も務めた。現在、大阪私立中学校高等学校連合会副会長、大阪府高校野球連盟副会長。

にする「オンリーワン教育」

生徒が輝く場をつくり、自己肯定感を高める

長年、男子校の校長を務めるなかで「男子と女子は勉強の仕方が違う」と草島先生は感じている。男子は目の前の現実のなかで心が動いたことに気持ちが向かう一方で、女子は計画的に見通しを立てて勉強する傾向にあるという。草島先生は中学生の頃は勉強に面白みを感じられず、学力が伸び悩んでいた生徒が、興國高等学校に入学し、自分の好きなことや興味のあることに夢中になるうちに、学習意欲を高め、学力を伸ばしていった例を数多く見てきた。そして、生徒たちは本当の自分をさらけ出し、互いに認め合い、磨き合い、励まし合い、成功体験を分かち合うなかで、自己肯定感や有用感を高めていく。

「そのためには、生徒が活躍できるさまざまな場面をつくること、そして、褒めることを大切にしています。例えば、学校行事の体育大会では、とかく足の速い生徒が目立ちがちですが、本校ではゲームの得意なITビジネス科の生徒たちが、eスポーツで活躍します。京セラドーム大阪の大きなオーロラビジョンにその様子が映し出されると、その瞬間にどよめきが起こり、普段ゲームばかりしているような生徒が脚光を浴びるのです。誰もが輝ける場面が学校生活のなかにある。そうして生徒たちは、自分の得意な分野で力を発揮して、さらにモチベーションを高めていきます」

存続の危機からの脱却

今でこそ、専願者だけでも募集定員を上回るほどの人気校となった同校だが、実は、少子化の荒波を受けて受験生が大幅に減少し、存続の危機にあった時期がある。

「以前はヤクザ映画の登場人物の母校として、ロケを依頼されたこともあるんですよ」と、草島先生は大改革前の学校の様子を語り始めた。同校は草島先生の祖父の草島惣治郎氏によって設立され、父の草島一氏に受け継がれた伝統校だ。物心ついた頃からこの学園に慣れ親しんできた草島先生は、大学卒業後、高校教員を経て、人材育成や研修企画、コンサルティングの仕事に携わり、研修講師などを務めてきた。興國学園の常任理事に就任したのは1997年のことだった。

だが、2000年の入試で学園に激震が走った。例年2,500名ほど集まる受験生が半減。周囲の女子校が共学化され、男子の受験生が他校へと流れていった。他校が進学実績を上げていくなかで、興國高校の実績は上がらない。受験生も集まらない。学校存続の危機が訪れた。

その時のことを、草島先生は「進学実績を競うのではなく、まずは多様な生徒を入学させること。個性に応じた教育で成果を上げること。それが危機から脱却するためのカギでした」と振り返る。

そして、父が大切にしてきた「オンリーワン教育」を軸に据え、「保護者とのかわり」「習熟度別」「ITビジネス」「進学」「クラブ活性化」「国際化」をテーマに改革に乗り出した。夏休みには教員全員が学校案内を持って地域の中学校を回る。入学前から生徒一人一人と向き合い、個を認め、受け入れる体制を築いていった。個性を大切にし、居場所をつくり、社会に貢献できる人材を育成する。草島先生は時に母のような温かさを醸し出しながら、生徒の声に耳を傾け、目標を見いだし、導いてきた。

そのような教育が実を結び、改革から20年の時を経て人気は回復。生徒数は倍増した。現在は普通科とITビジネス科で構成され、普通科は「スーパーアドバンス・アドバンス」「アスリートアドバンス」「キャリアトライ」「進学アカデミア」のコース別に授業を展開する。放課後には、やりたいことを見つけるための自由講座「寺子屋」を開講し、生徒たちは英検や簿記などの資格取得をはじめ、多様なキャリアにつながるプログラムに意欲的に取り組んでいる。



校内を歩き回り、生徒一人一人に声を掛け、褒める草島先生は、みんなのお母さんのような温かい存在だ

まずは英語に興味を持つことから

草島先生は日頃から、世の中では今、何が流行しているのか、生徒たちの関心事は何かということにアンテナを張り巡らせ、いかに教育に取り入れ、生徒の学習意欲を高めるかを考えている。

英語教育についても同様だ。英語嫌いな生徒も多いなかで、まず大切なのは「英語に興味を持ってもらう」ことにある。それがなければ、生徒の気持ちは英語学習に向かわない。例えば、アスリートを目指す生徒たちのなかには、今は英語が苦手でも、将来、海外で英語を使ってコミュニケーションを取らなければならない場面に遭遇することもある。そのようなときに臆せず英語を使えるようになるためには、英語に慣れ親しみ、語学や海外への興味を引き出すことが必要だと草島先生は考えた。

そこで、料理を楽しみながら、英語を学ぶ「英語でクッキング」という選択授業を設けた。校内には最新のIH機器やプロ使用のモニターを導入したクッキングスタジオを整え、ハワイ出身の調理師でプロのウクレレ奏者でもある、英語科のジェームス・ミランダ先生の指導のもと、生徒たちは英語でレシピの説明を受けて会話をしながら、ハワイ料理を作る。spoonやfork、chickenやporkと

いった日常的に使っている分かりやすい英語から始まり、stirやmixといった料理の動作を示す単語などを使いながら覚えていく。言葉の理解をひとつ間違えば、料理は完成しない。だからこそ、生徒たちは注意深く先生の英語に耳を傾け、理解するようになる。

ネイティブの教員はミランダ先生のほかに、ニューヨーク出身の先生がもう1人いる。リゾートのハワイと都会のニューヨーク、全く異なる環境で育ち、英語といえども異なる言葉を使う先生方と接しながら、生徒たちは文化の違いを肌で感じ、英語への興味を広げていく。また、毎年11～12月に行われる海外研修ではハワイ、グアム、オーストラリア、シンガポール、スペインに出掛け、夏休みにはイギリスやカナダでの約2週間の語学研修も取り入れている。生徒たちは実際に海外へ出て英語を使い、現地の言葉を使うことで、英語はコミュニケーションのためのツールであり、英語を学ぶこと自体が目的ではないと実感している。

夢を見つけて力強く歩む生徒たち

海外の文化に目が向いた生徒は、自然と世界に飛び出していくようになる。英語圏への留学はもちろん、イタリアの

サッカーが好きだからとイタリア語を独学で学び、イタリアへサッカー留学をしている生徒もいる。ボクシングをするためにメキシコへ、ゴルフでアメリカの大学に進むためにアメリカへ留学した生徒もいる。セブ島に行き、日本で生まれ育った自分とはあまりに生きていく環境が異なる子供と接し、当たり前だと思っていた生活は当たり前ではないと気づき、貧困の子供たちを救いたいとの思いを胸に帰国した生徒もいる。ほかに、ダイビングが好きだという不登校がちだった生徒に、草島先生がグレート・バリア・リーフの話をして、オーストラリアのケアンズへの留学を勧めたところ、興味あることを楽しみながら学べる環境だと意欲的になり、留学を実現させた。英語をすっかり使いこなせるようになって帰国したのちには、自分の不登校の経験をもとに心理学を勉強してみたいと、大学の心理学科へ進学した例もある。

このようにして同校の生徒たちは、自分が好きなことを究めていくために必要だからと海外へ飛び出し、生きていくために英語を使い、自ら意欲を持って学び習得し、夢を見つけて力強く歩んでいく。

「私は生徒によく話し掛けては、その反応を見ながら、何かその生徒のフックになるものはないかと探しています。本校はオンリーワン教育を大切にしていますが、好きなことや得意なことから始めれば、生徒はより一層輝き、意欲を高めていける。本校卒業生であるボクシングの井岡一翔選手は、在学中、世界チャンピオンを目指していたので、私が『チャンピオンになりたいのなら、ただボクシングだけができればいいのではない。英語力ももちろん必要であり、人間的に磨かれなければ真の世界チャンピオンになれる』と話すと、それから懸命に勉強をして、親の反対も押し切って大学にも進学しました。今はアメリカに拠点を



英検をはじめとする資格試験で
生徒が一生懸命勉強して努力した証を残し、
成長を褒めてあげたい

移してボクシングをしています。先日、『英語ができないとコミッショナーともやり取りできないので、さらに英語力を磨こうと努力しています』と話していました」

英検の全員受験で生徒が変わり 学校が変わった

同校では、実用英語技能検定（英検）の全員受験にも取り組んでいる。草島先生が全員受験をしようと英語科の先生方に投げ掛けた時、先生方は「うちの生徒たちの英語力を理解していますか。英検4級や5級に合格できるかどうかで、受験させるのも大変です」と当初は乗り気ではなかったと振り返る。当時は、大学の進学率を上げるためには、基礎学力を付けることが必要であり、そのためにまずは、学習習慣を付けることが大事であると考えられていたのだ。だが、英語を学ぶ習慣をつくり、学習の到達度を測ることや、学校での学習スタイルを確立することを考え合わせたところ、全校で英検に取り組むことの意味が見いだされた。今では生徒たちの英語学習への取り組みと英検の取得級を英語科の先生方が把握し、学習の到達度や生徒個々の英語力に応じて、その後の指導に役立てている。そうして取り組むうちに、生徒たちは友達ががんばっている姿に互いに影響し合いながら、問題集や参考書を自分で選んで学習し、各自が目標と

する級への合格を果たしていった。そして、合格したことで達成感を味わい、友達や先生にもその努力をたたえられると次へのモチベーションにつながっていく。学校全体の空気が変わったという。

草島先生は「英検をはじめ、本校ではいろいろな資格試験を受験させていますが、それは生徒が一生懸命勉強して努力した証を残し、褒めてあげたいからです。全員が受験するなかでは、4、5級の生徒の合格を目指して後押しをしますが、その一方で、ステップアップしている生徒も褒めてあげなければなりません。そうしているうちに、中学生の時には英語が嫌いだったのに、本校で英検に取り組みながら学習意欲を高め、準1級に合格する生徒まで出始めました。生徒にチャレンジしようとする気持ちを持ってほしいのです」と生徒の成長を喜ぶ。

創造性を大切に 生徒が輝く場をつくる

情報やモノがあふれる現代社会では、スマートフォン片手に世界中のさまざまな情報が簡単に手に入るようになった。だが、草島先生は言う。「それは単なる情報にしかすぎず、自分が何も経験していないなかで与えられたもの。それで全てを理解した気になることは危険です。創造性をなくしてしまうと思うのです。だからこそ、私たちは生

徒に“正しい場面”に遭遇させてあげたい。好きなことに夢中になるいろいろな経験をさせてあげたい。学力を上げること、大学の進学実績を上げることばかりに目を向けていては、学校としては間違った方向へ進んでしまいます。教育はすぐには結果が出ないものであり、学校は人を育てる場であると思います。どうしても学校は一对多になりがちですが、本校ではなるべく一対一の関係を大切にしています。一人一人のこだわりを見つけて、受け入れてあげて、褒めることです。すると、心が動き出します。心が動けば、あとは自ずと努力するようになっていきますから」

興國高等学校には、医歯薬系大学や難関大学への現役合格を目指す生徒から、トップアスリートとして文武両道を目指す生徒、国家公務員採用試験を目指す生徒、ICT能力を磨いて大学進学を目指す生徒まで、多種多様な生徒が集まっている。「個」を尊重するオンリーワン教育のもとで、自分の目標を見つけ、前向きに努力し、自分にしか歩むことのできない道へと自信を持って進んでいく生徒たちを、草島先生はいつも穏やかに温かな笑顔で見守り、一人一人の今を、そして将来を気に掛けている。そのためにも、今後も時代の流れを敏感に肌で感じながら、時に先を読み、創造性を大切に、生徒たちが輝く場づくりに邁進し続ける。



ハワイ出身のミランダ先生が教える「英語でクッキング」では、料理を楽しみながら英語を使って学ぶ。レシピ本『Let's Cook in English』には草島先生が和訳も添えた

SSH

スーパーサイエンスハイスクール の取り組み

文部科学省と国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の指定を受けた「スーパーサイエンスハイスクール（SSH）」では、独自のカリキュラムに基づいた課題研究の推進、観察・実験等を通じた体験的・問題解決的な学習に取り組み、大学との共同研究や海外の理数重点校との連携を進めている。2019年8月に開催された「2019年度スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会」で、表彰された生徒たちがまとめた研究成果の英文要旨を紹介する。

生徒の科学的能力や科学的思考力を培い 社会を牽引する科学技術人材を育成

2019年10月、リチウムイオン電池の開発に貢献した吉野彰氏（旭化成名誉フェロー）のノーベル化学賞受賞のニュースに、世間が沸いた。経済や社会の構造が急速に変化するなか、わが国が厳しい国際競争に勝ち抜き、持続的に発展していくためには、科学技術イノベーションを起こすことのできる科学技術人材の育成が必要とされる。そこで、文部科学省とJSTは、2002年度より先進的な理数系教育を行う高等学校等をSSHとして指定し、「生徒の科学的能力や科学的思考力を培い、将来、社会を牽引する科学技術人材を育成する」ことを目指している。

2019年現在、SSH指定校は全国で212校、すでに指定が終了した学校は

62校となる。指定校は「SSH基礎枠」「科学技術人材育成重点枠」に区分されるなど、それぞれ「体験的学習、課題研究の推進」「国際性を育てるために必要な英語での理科授業、プレゼンテーション演習等」「科学技術、理科・数学に重点を置いたカリキュラムの開発と実施」「創造性、独立性を高める指導方法、教材等の開発」「他校への成果普及」「地域連携、海外連携など（科学技術人材育成重点枠採択校）」「研究成果の評価への取組」に取り組んでいる。

全国218校が集まり、 全体発表した6校を表彰

毎年8月には、全国のSSH指定校が集い、生徒たちの研究成果を発表する

「スーパーサイエンスハイスクール生徒研究発表会」が開催される。今年は8月7～8日に神戸国際展示場（兵庫県神戸市）にて開催され、全国から218校、約4,500名の生徒・教員が集まった。

初日は基調講演、各校によるポスター発表が行われ、選考によって全体発表校6校が選出された。翌日には全体発表校が口頭発表を行い、審査により、東京都立小石川中等教育学校が文部科学大臣表彰を授与されたほか、国立研究開発法人科学技術振興機構理事長賞2校、審査委員長賞3校が選ばれた。さらに、ポスター発表において、今後の活躍が期待されるとして6校に奨励賞、22校にポスター発表賞も贈られた。

文部科学大臣表彰
東京都立小石川中等教育学校

Allorecognition behavior of slime mold *Physarum rigidum* plasmodium

Mana Masui

1. Introduction

When allogeneic plasmodia of slime mold encounter, they fuse or avoid each other depending on the combination, indicating that they can recognize self and non-self. In this study I aimed to develop a new model of allorecognition behavior, which is not fully understood yet.

2. Theory and Experiment

Two individual *Physarum rigidum* plasmodia were placed on agar and they were allowed to behave freely. 10 combinations were obtained from five geographical strains and 205 encounter cases were observed to quantify decision-making time / distance.

3. Results

Only one combination was ‘fusible’. Cases without contact of the cell membranes were observed. This so-called non-contact allorecognition occurred by contact with the hyaline mucus secreted from plasmodium. It has distinct characteristics regardless of distance and is faster compared to that involving contact.

4. Discussion

These facts suggest that the plasmodia of one *P. rigidum* can recognize others and can rapidly and safely decide whether to avoid or fuse with other plasmodia by non-contact allorecognition.

5. Conclusion

In previous studies, the principle of the plasmodium is basically avoidance of hyaline mucus. In this study, I propose the self-extension model. In the model, the mucus is not a simple repellent but functions as a signal that disperses information about self into the environment.

6. References (excerpt)

Reid C R, et al. 2012 Slime mold uses an externalized spatial ‘memory’ to navigate in complex environments Proc. Natl Acad. Sci. USA 109 17490-4

7. Key words

Myxomycetes, slime mold, plasmodium, non-contact allorecognition

8. Appendices

This study was published in *Journal of Physics D: Applied Physics* as a peer-reviewed paper in June 2018. Mana Masui et al 2018 <https://doi.org/10.1088/1361-6463/aac985>

研究論文をこちらから閲覧できます。



Moving an Object with Ultrasound ~The Development of Contact-free Pressure Controller~

Soma MOCHIZUKI

Abstract

It is believed that ultrasound, sound waves with frequencies higher than the upper audible limit of human hearing, has great potential for practical use in industrial and medical fields. The aim of this research is to move an object with use ultrasound. In order to this, I have developed a self-developed phased-array system with multiple ultrasound speakers which indicated the pressure by putting ultrasound in the same phase. As a result, I was successful in moving an object or changing the shape of it by focusing acoustic radiation pressure in a particular point in the air.

1. Introduction

The use of non-contact pressure brings a lot of benefits, enabling human controllers to deal with objects without contamination and remotely. We aim to develop a contact-free Pressure Controller by air-borne focusing of ultrasound in a particular point using phased array technology.

2. Theory and Experiment

- (1) I designed a close-structured electronic circuits, which leads to a transmitting device which amplifies signals by electronics circuits.
- (2) In order to form a focus with high pressure, you are required to put into the same phase ultrasound signals produced in different distances. I developed a system which indicates the difference in phase in terms of the difference in frequency.
- (3) I measured the pressure in order to establish whether the focus is formed in a targeted point. I also put the object around the focused point and observed the movement and the shape change of it.

3. Results

I was successful in forming a focus where acoustic radiation pressure is at the maximum in a particular point in the air. Putting a light-weighted object on the focus, I observed a change in the shape or air-borne movement. The pressure also produces tactile stimulation.

4. Discussion

A pressure controller, which makes ultrasound converge, enables human operators to move an object or change the shape of it without touching the object directly. Moving the controller or the focused point along the time is thought to make it possible to give a series of pressure control to the object.

5. Conclusion

Focusing ultrasound makes possible non-contact dealings with an object. Further application of this technology includes manipulating the flow of fine particles or liquids.

6. References

・「Revised Physics」 TOKYO SHOSEKI Co., LTD.

7. Key words

Ultrasound, phase coordination, phased array, acoustic radiation pressure

Former step of caramelization of sucrose ~approach polyols structure~

TAKATSU Mai MARUTA Yusuke IKEDA Azusa

Abstract

The objective of this project was to reveal the former steps in the caramelization process of sucrose by analyzing differences in the structure of polyols. Results suggested that sucrose exposed to high temperatures was hydrolyzed into glucose and fructose. Fructose rapidly caramelized to form 5-hydroxymethylfurfural (HMF).

1. Introduction

Caramelization is a complex reaction that occurs when polyols are exposed high temperatures in cooking. Aim of this study is to identifies the former steps of the caramelization process of sucrose by analyzing the structural differences in polyols.

2. Theory and Experiment

12 kinds of polyols were heated on an electric griddle and observed the process of color change. The chemical properties and amounts of these products were analyzed by TLC. The common product from the caramel formed from disaccharides and monosaccharides were separated and purified by column chromatography and their structures analyzed through by ¹H-NMR and IR.

3. Results

Glycitol were not caramelized easily. Sucrose and ketose caramelized faster than other saccharides. In the disaccharide caramel, a spot on which analysis with the same R_f value as the constituent monosaccharide was detected. Measurement of the HMF spot strength by TLC indicated that it was produced in large amounts with ketose and sucrose.

4. Discussion

Monosaccharides become brown due to the presence of HMF. The reason why ketose tends to become caramel is presumed to contain HMF or a structure more similar to HMF than aldose.

5. Conclusion

Heated sucrose hydrolyzes into glucose and fructose. The fructose quickly turns into HMF and becomes brown rapidly.

6. References (excerpt)

Mafalda Quintas et al, (2007) “Multiresponse modelling of the caramelization reaction” Innovative Food Science & Emerging Technologies Vol.8 P.306-315 etc.

7. Key words

Caramelization, sucrose, saccharide, aldose, ketose, 5-Hydroxymethylfurfural



リスニングをテーマとした実践発表。参加者同士の意見交換が次へのヒントとなる

（連載）教員の自主研修 第2回 大分県編

地域で発足した自主研修の輪を県全域に広げ より良い授業づくりを考える場に

2015年の全英連大分大会において、大分県中学校英語教育研究会（大分県中英研）は、県内を6つのブロックに分けて研究テーマを設定し、授業実演や分科会発表を行った。

その基盤となったのは、これまで各支部で継続してきた中学校英語科教員による任意の研究団体の活動であった。

全英連大分大会から4年が経過し、若手教員たちは2018年の全英連滋賀大会で大いに刺激を受け、大分大会を契機に高まった授業改善への火種を絶やさぬよう、新たな研修会 SELT-Oitaを発足させ、実践交流を深めている。



会長
志賀 哲哉 先生
（竹田市立竹田南部中学校長）



前事務局長
小倉 弘文 先生
（大分市立明野中学校）



研修部長
橋迫 知章 先生
（大分県立大分豊府中学校）



研修担当
丸田 仁 先生
（大分大学教育学部附属中学校）



事務局
大塚 慶一朗 先生
（姫島村立姫島中学校）



事務局
多田 直樹 先生
（大分市立植田中学校）

全英連滋賀大会をきっかけに、自主研修組織「SELT-Oita」を発足

2018年12月、大分県中英研修部長の橋迫知章先生が中心となり、SELT-Oita (The Seminar for English Language Teachers in Oita) が発足した。11月に参加した全英連滋賀大会の中学校授業実演に刺激を受け、一緒に参加した事務局長の河村侑亮先生とともに、教員が授業改善についての学びを深めるセミナーを開きたい、と考えたことがきっかけだった。授業づくりに悩む先生、授業に不安を抱えている先生、ほかの先生の意見を聞きたい先生などが集い、英語の授業のあり方について、各自の実践を持ち寄って話し合い、学んだことを勤務校や地域へ持ち帰って実践を広げていくことを目指したのだ。

そうして間もなく開催された第1回 SELT-Oitaは、「スピーキング」をテーマとした。ディスカッションやディベート、リテリング、スモールトークなどの言語活動について、参加者たちが授業案や教材を持ち寄って自身の実践を話し、意見交換を行った。若手教員もベテラン教員も互いの実践や悩みを共有し、子供たちに力を付けてあげられる授業とはどのようなものかを熱心に語り合った。橋迫先生は「実は、若い先生ほど、自分の力を発揮できず、悩みながら日々の授業を行っています。その結果、自分が受けてきたような授業を実践しがちで、昔ながらの授業をしているようなのです。また、若い先生はあまり出張に出る機会もなく、部活動の顧問として週末は練習や試合などに出なければならないことも多いため、授業づくりについて学ぶ機会が少ないのが実情です。だからこそ、SELT-Oitaで研修を受け、県内の先生方と交流し、自身の実践について助言を受ける機会を持ってほしいと思いました」と、SELT-Oita発足への思いを語る。

その後も研修会は継続的に開催され、順次、スピーキング、ライティング、リーディングをテーマとして取り上げた。2019年9月に開催された第5回ではリ

スニングをテーマとし、ここまで4技能全てを網羅した。参加者は少しずつ広がっている。今後は、評価やテストについても取り上げる予定だ。

各支部の活動を全英連大分大会へ結び、大会後も研修の機会を

大分県中英研は現在、会長の志賀哲哉先生、事務局長の河村先生のもとで運営されており、各支部ではテーマを決めて定期的に研究会を開催している。支部ごとの活動が中心となるが、毎年11月には高英研と連携して県大会（大分県英語教育研究大会）を開催し、中学校と高等学校の公開授業、レポート発表、有識者による講演会を行う。公開授業を行う実践者は大学教授などの指導助言のもとで研究を重ね、当日を迎える。講演者は、中英研会長やメンバーが、その時々に応じたテーマにふさわしい人選をして、直接コンタクトを取って講師に招く。

だが、橋迫先生によれば、県大会に参加する教員は毎年50名前後とあまり芳しくないという。「県大会は参加者が伸び悩んでいるのが実情です。しかし、英語教育がこれだけ大きく変わろうとしている今、県大会の公開授業や講演から、最近の授業はこんなにも変わっているのだと実感していただき、その情報を地域や学校に持ち帰り、県全体で授業改善への機運を高めていきたいのです。県大会に100名以上の参加者を集めるためにも、気軽に参加できるセミナー形式の研修会を2カ月に1回程度開き、県内の先生方の授業改善への取り組みを知ってもらい、県大会にも参加してもらえような流れをつくりたい。SELT-Oitaはそういう場にしたいと思います」

2015年の全英連大分大会では、県内を6ブロックに分けて、ライティングやスピーキング、授業改善などをテーマに、各支部で数年にわたって取り組んできた研究の実践内容や成果、課題などを、

授業実演や分科会で発表した。前号で掲載した新潟県の「プロジェクト・スマイル」発足のきっかけとなったのは、こうした支部の研究活動だった。前事務局長の小倉弘文先生は「大分大会に向けて各支部では、個々の先生方が実践を持ち寄り、互いに意見交換をしながら、自身の授業づくりに役立てていくという研究を重ねてきました」と振り返る。そして、全英連大分大会をゴールとはせず、大会に向けて各支部が取り組んできた研修の熱を冷ましてはならない。継続していくためにも、研修に力を入れるべきであると、年2回（7月と2月）に研修講座を開催し、毎回テーマに合わせた講師を招いて、講演を聞く機会を設けてきた。

中英研事務局としては、県内の先生方にできる限り、県内外で行われる研修や研究大会などに参加してもらい、学んだ内容を地域や学校で共有してほしいというねらいがある。小倉先生は「中英研として旅費も出すので、積極的に参加してほしい」と呼び掛けている。そして、「事務局にも最近は若い先生方が入ってきて、世代交代の時期にきています。研修に参加して、いろいろな先生に声を掛けて、中英研の活動を広めてもらえたらありがたいです」と話した。

SELT-Oita発足のきっかけをつくった
橋迫 知章 先生



各支部から受け継がれてきた教員たちの思いのもとで

このように、まだ発足して間もない自主研修会 SELT-Oita だが、その基盤になったのは、県内各支部での研修会であり、大分県内ではすでに25年ほど前から、中学校英語科教員による任意の研究団体が存在していた。その1つが BELT (Bungo English Language Teachers) といい、豊後地区の英語科教員の自主研修組織だ。自身もメンバーであった小倉先生によれば、BELT は柳井智彦先生 (現・大分大学特任教授) が引き継ぎ、中心となって運営した自主研修組織で、月1回活動し、著名な講師を招いていたそうだ。

そして、BELT で学んできた立川研一先生 (現・大分大学教職大学院准教授) が佐伯教育事務所の次長となり、SELT (Saiki English Language Teachers) を有志とともに立ち上げ、佐伯地区の先生方と自主研修会を開いた。橋迫先生は佐伯地区の中学校に勤務していた際に、平日夕方に関われるこの SELT に参加して研修を受けた。こうして、BELT から SELT へと自主研修の輪がつながり、県内各地で教員同士が学び合う場は広

まっていた。

「SELT-Oita は、このような県内の自主研修の流れをくんで、諸先輩方の思いも受け継ぎながら、県全体に研修の輪を広げようと立ち上げた自主研修組織です。私自身、初任校は英語科教員一人という小規模校でしたが、のびのびと思うように授業を実践できる反面、悩んだり不安を抱えたりしたときには誰にも相談できず、寂しい思いをしたものです。だからこそ、セミナー形式で先生同士が自分の実践を発表し合って、意見を交換し、授業づくりのヒントを得られる場をつくりたい、ベテランの先生にはご自身の経験を若い先生に伝えてほしいと思います。そうして若い先生もベテランの先生とともに学び、不安を解消し、新しい授業のあり方を模索していきたいですね」と橋迫先生は期待を寄せる。

一人で悩みや不安を抱え込まず 参加者同士の助言や刺激で成長

SELT-Oita の活動に実際に参加して刺激を受け、授業が充実したという先生方は多い。大塚慶一郎先生は「出張に

行くたびに授業の進度や帯活動、授業のことなど、英語の先生同士の悩みを聞くことがよくあります。英語の授業をする先生の顔に笑顔がなく暗いままだと、授業を受ける生徒たちにもその影響が出かねません。私自身も SELT-Oita や中英研の研修講座に参加したことで、自分一人で考えるよりも、いろいろな先生の意見を聞くことができ、活動のバリエーションが増えています。実践交流を通じて互いが刺激し合い、参加した先生たちが笑顔になることで、楽しく充実した英語教育を提供することができる。それが中英研のあるべき姿だと感じています」と研修の良さを語る。

昨年から中英研事務局に入り、活動を始めた多田直樹先生は、「これまでは県の弁論大会などがどのように運営されているのかといったことは全く知りませんでした。実際に大会運営に自分が携わることで、いかに多くの先生が関わり、準備をしているのかということを実感しています。そして、これまでは自分の授業に何となく満足していましたが、SELT-Oita に参加して、いろいろな先生と知り



合い、もっとがんばらなければと刺激を受けました」と話す。

さらに、全英連大分大会で授業実演をした丸田仁先生も「SELT-Oita に参加する先生は授業改善への取り組みに熱心な方がとても多く、私自身が作成した教材を見ていただいてアドバイスを受けることで理論づけができています。それにより、自信を持って授業を行うことができるようになりました」と満足している。丸田先生は全英連大分大会の実演にあたり、事務局員の先生方からアドバイスをを受けながら研究を重ね、授業を練り上げていった経験がある。「あの経験があったから、私は間違いなく成長できたのだと思います。あの時、多くの先生方にお世話になったからこそ、今度はその恩返しとして、自分にできることをしていきたいと思います。いい授業は自分一人で作ることなどできません。周りの先生方と協力して授業をつくることの大切さを、私は全英連大分大会を通じて学びました。中学校教員は、授業だけでなく部活動や生徒指導などさまざまなことで本当に忙しいですが、どれだけ忙しくても、一度こういった研修に参加してみると、学びが多く、また参加したいと思えるものです。ぜひ、一人でも多くの先生

に参加してほしいと思います」と感謝を込めて話した。

活動の輪を県内に広げ 小学校や高等学校とも連携したい

これまで、橋迫先生が中心となり、県内の先生方に呼び掛けて SELT-Oita を開催してきたが、今後は丸田先生も活動を推進していくメンバーとなる。橋迫先生は「口コミで少しずつ広げながら、若い先生の参加を促し、地域をリードしているようなベテランの先生方にも若手ががんばっているなら協力しなければと参加していただけるような会にして、参加者を増やしていきたいです。いずれは小学校や高等学校の先生たちも巻き込んでいくことができたら」と意気込む。

志賀先生はこのような若手の先生方の活躍を喜び、SELT-Oita の意義につ

いて、「中英研としては、県大会や研修講座を通じて、県内の先生方が著名な先生の講演を聞く機会を設けており、授業改善のために必要な理論を学ぶ貴重な場となっていると思います。しかし、若い先生、特に初任の先生などは時間や気持ちの余裕がなく、目の前の生徒への指導、明日の授業をどうすべきかといったところに不安や悩みを抱えているものです。SELT-Oita では、実際に授業での実践例が発表されるため、すぐに実践できる活動などのヒントを持ち帰ることができるとともに、一緒にがんばろうと思える仲間ができる、研究と修養の場になっているのではないかと思います。悩みや不安を共有し、仲間からアドバイスを受ける。そうして次の授業づくりに生かして、実践を積んでいくことが大切です」と述べた。



中英研大分公式サイトで最新情報を発信!

大分県中英研は、県内の英語教育関係者の情報共有の場として、「中英研大分公式サイト」を公開している。大分県中学校英語教育研究大会や研修講座をはじめ、大分県中学校英語弁論大会、SELT-Oita の活動などについて、随時情報を発信。今後は、授業づくりに役立つ自作教材を通じた交流の場をサイト内に設定することも予定している。

<http://chueiken-oita.com>

英語教員国内研修

授業改善に取り組む仲間と出会い 明日からの授業づくりのヒントを得る

全国英語教育研究団体連合会（全英連）は、教員の指導力向上を目的として、公益財団法人 日本英語検定協会（英検協会）とともに、毎年7月に3日間の「全英連・英検共催 小中高英語教員向け国内研修」を東京都内で開催している。公募により全国から集まった小・中・高等学校の教員たちは、全面実施を目前に控えた新学習指導要領についての理解を深め、これから求められる授業のあり方を検討し、模擬授業をつくり上げた。講師を務めた四国大学准教授のフェネリー マーク先生と、愛知県立大学教授の池田周先生の指導助言内容を紹介する。

1日目
(7月25日)

活動内容の説明

小・中・高等学校の校種別に、担当講師が3日間の活動内容を説明。各校種とも4つのグループに分かれて活動する。授業案作成にあたって、講師自身の経験を踏まえた指導・助言を受ける。



2日目
(7月26日)

授業案および 評価案の検討

終日にわたり、グループ別に授業案と評価案を検討する。事前に指定された教科書・教材の該当課について、各自が持ち寄った案を話し合い、設定した目標と指導、評価を一体化した授業を練り上げる。



3日目
(7月27日)

模擬授業の発表

前日に練り上げた授業案を校種別に順次、実践発表する。発表者が指導者役、ほかの校種の参加者が児童生徒役となり、教える側と学ぶ側を体験する。発表後には担当講師から講評を受ける。



講師による1日目の指導助言より

外国語活動・外国語科の授業で 大切にしたいこと

英語を使って自分の考えや気持ちを伝え合う「言語活動」においては「目的・場面・状況」の設定が大切

▶ 「誰に向けて」「何のために」伝えるのかによって、使う言語や表現は違う

英語を使って自分の考えや気持ちを伝えるのが楽しいと感じる子供を育てる

▶ 全ての子供が英語を得意にはなれないが、嫌いにはなっていない

「人と関わるのが楽しい」「自分の考えや気持ちを相手に伝えるのが楽しい」と感じる前向きなコミュニケーターを育てる

新学習指導要領の目指す 中学校・高等学校の授業とは

外国語教育における学習課程の流れ（例）

- ①設定されたコミュニケーションの目的や場面、状況等を理解する
- ②目的に応じて情報や意見などを発信するまでの方向性を決定し、コミュニケーションの見通しを立てる
- ③目的達成のため、具体的なコミュニケーションを行う
- ④言語面・内容面で自ら学習のまとめと振り返りを行う

▶ 思考力・判断力・表現力等の育成

小学校

授業提案

「中学校でしたいことを中学校の先生に伝えよう」

6年生用小学校外国語教育新教材『We Can! 2』より
Unit 9「Junior High School Life」（全8時間）

グループごとに「導入」「慣れ親しみ」「文字の導入」「発表と振り返り」をテーマとして担当し、授業案を実演・解説した。最終時には中学校の先生を招いてスピーチを行うことで、中学校の先生にも、どのような英語に慣れ親しんできた子供たちが入学してくるのかを把握してもらい、小中接続を意識した授業をつくった。

01 導入



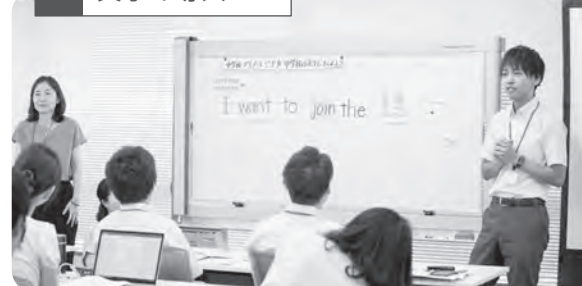
Small Talkで中学校にある部活動を写真と文字で紹介し、自分が入りたい部活動について尋ね合い、やり取りをする。続いて中学校の部活動と学校行事を表す単語を紹介し、子供たちが知っている語彙を活用して、中学校の部活動や学校行事への興味を引き出した。

02 慣れ親しみ



部活動の名称や入りたい部活動を尋ねる表現に慣れ親しむ。先生の“I want to join the ... club.”の言葉を聞いて、当てはまる部活動のカードを指さす。チャンツも用いて子供たちに表現を言わせたのち、子供同士で入りたい部活動とその理由について尋ね合う。

03 文字の導入



まず、子供たちと“I want to join the”“I want to enjoy”の表現を使ってやり取りをする。続いてワークシートを用いて、自分が入りたい部活動と楽しみにしている学校行事を選び、“I want to join the”“I want to enjoy”の表現に当てはめて書き写す。

04 発表と振り返り



前時には“I want to join the”“I want to enjoy”の表現を使って中学校の先生に向けた手紙を書いており、本時では中学校の先生に向けてスピーチをして自分の考えや気持ちを伝える。発表後には担任の先生が“Who want to join the soccer team?”と問いかけ、子供たちが答える活動も行う。最後に振り返りシートを使って自分の活動を自己評価した。

小 学 校 授 業 提 案 講 評



フェネリー マーク 先生

自分の考えや気持ちを伝え合う活動を大切にしたい授業づくりを

新学習指導要領が目指すのは、知識・技能を活用して、思考力・判断力・表現力や学びに向かう力を言語活動を通して養い、世界と関わる子供たちを育てることです。先生方にはぜひ、子供たちと一緒に、自分自身のこと、自分の考えや気持ちを伝え合う活動を大事にしてほしいと思います。小学校で子供たちが経験する自分の考えや気持ちを伝え合う活動を、中学・高等学校の先生方にもご理解いただき、子供たちが学びに向かう力を伸ばして欲しいと思っています。



池田 周 先生

自律した学習者を育てるために大切な目標提示と共有、そして振り返り

Teacher Talkは「ゆっくり、繰り返しが多い、語彙や表現が簡単」という特徴を意識しながら、先生自身が楽しく使えとよいでしょう。クラスルーム・イングリッシュはシンプルに、最初は語単位でも構いません。児童が集中して、何をすべきかをきちんと聞き取れることを意識します。中学校との連携では、どのような表現をどのような活動を通して小学校で学んできたかを理解していただいたうえで、中学校でもそれらをSmall Talkで引き出し、活用してもらうとよいでしょう。授業では目標提示とイメージによる共有、振り返りの時間を設け、児童が「目指す姿」の見通しを持って活動に取り組み、「どこまでできるようになったか」を自分で言葉に表せるように励ましてあげてください。

中学校 授業提案

「自分や人の紹介を通して 疑問詞や動詞の使い方を理解する」

中学校1年生『NEW HORIZON English Course1』（東京書籍）／『NEW CLOWN ENGLISH SERIES1』（三省堂）より

小学校で“What ...?”や“want to”“Do you like ...?”に慣れ親しんできた生徒たちの学習事項を生かし、中学1年生ではどのような導入を行うか、そこから単元の学習到達目標へと導くために、どのような言語活動の工夫を行うかを意識した授業づくりについて、グループで話し合い、小学校との接続を意識した授業と評価案を提示することを目指した。

第1グループ

Music, Sports, Food, Subjects からトピックを1つ選んで自己紹介ができることをゴールとした。like, play, eat, study の動詞を提示し、自分で考えた紹介文のメモをもとに、ペアで活動する。



第2グループ

『We Can! 2』を活用し、Anastasia の自己紹介を聞く。続いて先生が Anastasia を紹介したあと、I / You / He / She が主語となる文を提示して、どのようなときに s が付くのかを生徒に考えさせ、「生徒の気づき」を促しながら三単元の s を導入した。



第3グループ

疑問詞 which の導入に向けて、『We Can! 2』のオリンピックの単元を題材に、好きなスポーツについて既習表現を使いながらペアで話し合い、小学校で慣れ親しんだ“What sports do you like?”と“What do you like?”の表現との違いに対する気づきを促す。



高等学校 授業提案

「教科書の内容理解のための発問で組み立てる授業」

高校1年生『MY WAY English Communication I New Edition』（三省堂）より
Lesson1 「A Story about Names」

高等学校の実演では「教科書本文の内容理解を、教師と生徒とのやり取りで組み立てる」ことを重視した。4つのグループがそれぞれ、教科書本文の内容理解のための発問、予想される生徒の発言、それを受けた教師の次の発問を指導案に盛り込んだ授業を提案した。教育困難校や進学校など生徒の英語力に応じた発問内容の違いなども示された。

第1グループ

Section1を読み、日本以外の国では姓と名はどのような順になっているのかを理解する。続いて、スクリーンに映した複数の人物の姓名の順を答えたあと、自分が英語で自己紹介する際に姓と名のどちらを先に言いたいかを考え、家庭学習で意見を書いてくることとした。



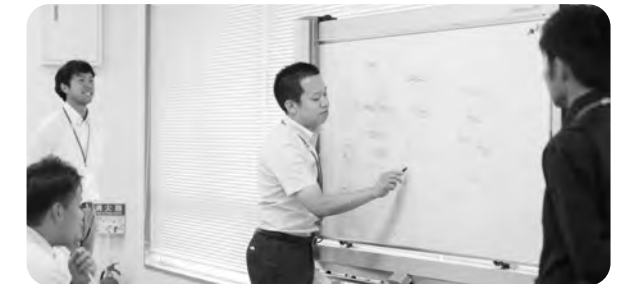
第3グループ

Section3を読み、姓がない国や地域があることを知る。そして、なぜミャンマーやモンゴルでは姓を名乗らないのかをペアで話し合う。同じアジアにありながら、日本や中国、韓国では姓を重視する一方で、ミャンマーやモンゴルでは名のみを名乗ることから、文化の違いを理解する。



第2グループ

生徒同士のやり取りを大切に、Section2本文から何が読み取れるかを考える、教師による「推論発問」で展開する授業を提案した。姓には3つのタイプがあることを読み取ったあと、なぜ人々は姓を必要としたのか、さらに、もし姓がなかったらどんな問題が起こるかを生徒同士で話し合わせ、全体に共有した。



第4グループ

本文を全部読んだあとにどのようなプロジェクトに取り組めるかを提案した。もし海外に行き、現地の人々に自分の名前を表す漢字の意味を尋ねられたら、どのように紹介するかを、先生がまず自分の名前について説明したあと、グループで話し合わせ、発表する。



中学校・高等学校授業提案講評



フェネリー マーク 先生

新しい英語教育のために新学習指導要領と向き合い、授業を変えていってほしい

先生方は授業を通して、子供たちに何らかの変化があるように意識をした授業づくりをしていますか。授業の冒頭で本時の目標を提示して、終末にはそれを達成できたかどうかを確認していますか。中学校や高等学校では、これまでのような文法の解説から入るような授業から、生徒の言語活動主体の授業へと転換し、活動を通して子供たちが気づきを得られるような授業をつくっていく必要があります。そのためには、教科書の題材を読み、その内容について考えて話し合い、自分の意見を伝え合う活動が重要になります。今後は中学校でも答えのない問いについて子供たちに考えさせて発言させ、ディベートやディスカッションをするなどの活動が増えていくでしょう。そして、高等学校では小中学校での授業の変化を受けて、さらに言語活動の高度化につながる授業改善が求められることになります。

今後は、小・中・高等学校が教材を通じて、指導を通じて、自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動を通じてなど、さまざまな連携が必要となります。3日間の研修のなかで、先生方も学校や地域、校種を超えたつながりを持つことができたことと思います。そして、知り合った先生方から刺激を受けて、さらに明日の授業をより良いものにしようという意識が高まったことでしょう。日本の新しい英語教育のために、新しい学習指導要領と向き合い、授業を変えていきましょう。



池田 周 先生

生徒たちの学びの可能性を信じ、教師発話を大切にした授業づくりを

中学校では、生徒たちが小学校で慣れ親しんできた単語や表現を再度活用し、それらの言語形式上の共通性、規則性に「気付かせながら」文法事項や構文などとして整理していくことが求められます。「文法用語を英語で解説する」のではなく、生徒たちが目的・場面・状況に応じた英語を使って、自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動を通じて、「どのようなときに、この表現を使えばいいか」を生徒が考え、気づきを得る経験をさせることが大切なのです。さらに高等学校では、先生自身が生徒たちに英語で語りかけ、読んだり聞いたりしたことについて「思考を深める」ような問いかけを行い、やり取りを通じて生徒自身に考えさせ、言葉にさせるための教師の発話が重要となります。生徒が指示されて話すのではなく、教師の巧みな発問によって、自らの考えや気持ちを表したくなるように促すのです。そして、生徒ががんばって発言したら、それを褒め、パラフレーズして、既習表現や新出表現と結び付けて整え、何にいつ焦点を当てるかを適切に見極めて指導を組み立てる力が必要です。素晴らしい授業とは、環境が整った学校でしかできないものではありません。どこの学校でも、地道に生徒たちと向き合い、育てていけば、生徒は主体的に学びを深めていきます。まずは先生方から質的な授業改善を行う。主体的に学習に取り組むことができるよう、生徒たちの意識を変える。すなわち、子供たちの学びの可能性を信じて、しっかり生徒と、さらに教材と向き合っていくください。

明海大学 副学長
教職課程センター長
地域学校教育センター長
外国語学部長
高野 敬三 教授

METTS Commons

教職課程センター・地域学校教育センター
Teacher Training Support Commons

変わる 大学の教職課程

【第1回】

明海大学 教職課程センター・地域学校教育センター

児童生徒に寄り添うことのできる “心ある教員”を育てたい

明海大学では、2016年4月に発足した教職課程センターと地域学校教育センターが一体となって、教員たちが教職を目指す学生と密接に関わり、その成長を見守ってきた。センターの教員たちは、一人一人の学びの可能性を信じ、英語を通して学生たちと喜怒哀楽をともに味わいながら、自身が中学校や高等学校、教育委員会などで積み重ねてきた経験を語り、示している。児童生徒に寄り添うことのできる“心ある教員”を育てたい。センターの教員たちの共通する思いはただ一つだ。

教職課程センターと地域学校教育センターで支える体制

「明海大学の教職課程を充実してほしい」との命を受けて、高野敬三副学長が明海大学に着任したのは、2015年4月のこと（教職課程センター長・地域学校教育センター長・外国語学部長を兼務）。高野副学長は、東京都教育委員会の一任で東京都教育監として長年にわたって小・中・高等学校の英語教育に携わってきた経験から、英語科教員を目指す学生を掘り起こし、英語の授業を通して人間教育を行うとともに、大学の持つ教育研究の成果を活用して、地域の教育に貢献することが必要であると考えた。そこで2016年4月、教職を目指す学生が学年や学科の枠を超えて集い、教員と近い関係のなかで指導を受けることのできる「教職課程センター」と、教職課程で学ぶ学生たちが地域に出て実際に学びを実践する場をつくり、大学の教育資源を地域に還元する「地域学校教育センター」を設置した。

「全国に800もの大学があるなかで、教職課程を持つ大学は600にも上りません。明海大学で教職課程を充実させるためには、他の大学にはない独自性が求められ、それが、英語を通して子供たちに寄り添うことのできる“心ある教員”を育てることだと言えます。また、コインの裏表のように、教職課程センターと地域学校教育センターが一体となって機能し、学生が大学で学んだことを、地域の小・中・高等学校での学習支援や大人向けの英語講座等で実践し、地域で

の体験を大学に持ち帰ってさらに学びを深めていく教育が必要であると考えています」と高野副学長は語る。

そして、2017年には文部科学省が英語教員の英語力・指導力強化のため、教職課程における「教職課程コアカリキュラム」「外国語（英語）コアカリキュラム」を打ち出したことに伴い、明海大学でも大学独自の科目を設置し、教育の質向上を目指した。

学生が集い、教員が寄り添う 学びの空間

教職課程センター・地域学校教育センター（通称METTS Commons：Meikai Teacher Training Support Commons）には、朝から夜まで常時、教職課程を履修する学生たちが集い、ともに学び合う。施設内ではタブレットPCやプロジェクターを使用したグループワークができ、ガラス張りのFaculty Officeには教職課程の教員たちが常駐する。学生たちは自学自習やプレゼンテーションの練習などグループワークをするほか、学修や進路の悩みについていつでも教員に相談することができ、指導を受けることができる。教員たちも一人一人の学びの可能性を信じて、時間を惜しまず学生たちに寄り添う。千葉県や東京都の中学・高等学校での教員経験を持つセンターの教員たちは、自身の長年の経験に基づく実践的な指導技術を授業で示すほか、METTS Commons



写真左から、教職課程を履修する神谷さん、平原さん、本間さん（いずれも3年生）

に集う学生たちからの相談に対して、より具体的なアドバイスや提案ができるという強みがある。

実際に利用する学生に聞いてみると、平原豪さん（3年生）は「私が英語科教員を目指したのは、他人から存在価値を認められるような仕事をしたいからです。METTS Commonsは教職履修の学生だけに開かれた空間で、無料で使用できる教科書や参考書もあり、いつでも先生方に相談できるのがうれしいです」と話す。地域にボランティアで学習支援などに行っている本間大地さん（3年生）は「実際に自分が教師になったらどのように教えればよいのかを考えるきっかけになり、貴重な経験ができています」と喜ぶ。神谷美麗さん（3年生）は「英語が苦手だった私を、トップクラスになるまで引き上げてくださった高校の時の英語の先生のようにになりたい」と教職課程を履修した。今年2月には本物の英語に触れたいと、オーストラリアの大学で英語研修を受講し、「大学にはMETTS Commonsをはじめ、海外研修やネイティブの先生による英語の授業などの環境も整っているの、大いに活用したい」と話した。

METTS Commonsでは教職課程を履修する学生たちが学び合い、教員たちの親身な指導を受けられる

豊富な現場経験を生かした実践的な指導

千葉県 の公立高等学校で技能統合型の授業やパフォーマンス評価などに長年取り組んできた百瀬美帆准教授は、豊富な実践経験を生かし、学生たちが授業づくりでつまずきがちなポイントを見極めた指導を行っている。担当している科目は、1、2年生の「教職基礎セミナーⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」、3年生の「教科教育法Ⅰ～Ⅳ」、4年生の「教育実習Ⅰ・Ⅱ」だ。

百瀬准教授は、学生たちが将来、教員になったときにどのような授業をすべきかを理解させるため、1、2年生の「教職基礎セミナー」で、まず自身が実践してきた授業を再現してみせる。学生には学習者として授業を体験させ、ディベートやアクティブ・ラーニング、プレゼンテーションなどの活動を取り入れた授業を

提示する。「1、2年生での実体験に基づく感覚を持って、学問としての『教科教育法』を捉えられることが、本学の教職課程の強みです」と話した。

取材に訪れた日は、「教科教育法」の授業で、3年生が初めて模擬授業を行った。Small Talk で扱うトピックを、前時で学んだ内容や本時の目標表現とどのように関連付け、どのような英語で語りかけるのか。模擬授業を行う学生は百瀬准教授と話し合いながら入念に準備を重ね、指導案を作成してきた。

『先生が素直な自分の気持ちを語れば、生徒たちはついてくるのよ』と伝えたら、『授業ってそれでいいんですね』と驚いていました。文法訳読型の授業しか受けておらず、先生が自分のことを語るような場面に遭遇したことがなかったのでしょう。学生たちは新学習指導要領に基づいた授業を行うことになります。だからこそ、生徒に何を学ばせたいのか、何を引き出したいのかを意識した指導計画を立てていくことが重要なのです」と述べた。

授業中、百瀬准教授は温かなまなざしで学生を見守りながらも、思い描いた授業展開ができずに慌てる学生に対して、教員としての立ち居振る舞い、生徒に語りかけ、指示する英語などを指摘しながら



ら、ほかの学生たちにも指導した。

学生たちはこのような試行錯誤を繰り返し、実践を積んでいく。そして、自身の英語力と授業を進める英語力とのギャップに戸惑いながらも、次第に英語と積極的に向き合うようになる。なかには学科独自の英語研修や、教職課程の学生対象の「オーストラリア奨学研修」に応募する学生もいる。地域学校教育センターが連携する地域でのボランティアに参加し、学んだことを実践する学生も多い。

「ボランティア経験により、学生たちは英語力とはもとより人間力が磨かれていきます。物事を俯瞰して見る力を付けて、大きな成長をしています。本学の学生は自己肯定感や自己有用感が低く、ボランティアを通じて、他者から必要とされて自己有用感を高めています。そうした力は将来、学生たちが教員になったときに大いに役立つことでしょう」と百瀬准教授は、学生たちの成長を喜んでいる。

大学の人的資源・教育資源を地域に還元

1年生の「小学校英語基礎概論Ⅰ・Ⅱ」や2年生の「特別活動論」、4年生の「教職実践演習」を担当する石鍋浩教授は、東京都の公立中学校での英語科教諭や校長経験を生かして、小・中学校の英語教育、生徒指導などを教えている。また、玉川大学との連携協定に基づき、2年前から実施している小学校教員養成特別プログラムの指導も行っている。大学独自設定科目の「小学校英語基礎概論」は、小学校英語の理論や実践を学ぶ場であるが、学生の問題解決能力を高めるため、学生同士でディスカッションするような場面も取り入れ、教員になったときの心構えや子供たちとのやり取りなど、具体的な指導のエッセンスを込めた授業を行う。また、この科目を履修し、小学校で50時間英語の指導をした学生には「小学校英語指導者認定協議会（J-SHINE）」から小学校英語指導者資格が与えられる。昨年度は9名が資格を取得し、卒業した。さらに、地域学校教育センターでは、自身がパイプを持つ東京都足立区や港区をはじめ、千葉県

浦安市、秋田県横手市などとの連携を深め、教員研修を引き受けている。

石鍋教授は「大学として地域のためにできることは、大学の持つ教育資源や人的資源を地域に還元することにあります。そして、私が各地域で見てきたことを他の地域に伝えていくことも地域連携につながるのだと感じています。また、大学には多くの留学生がいますが、彼らも大学にとっては大切な人的資源です。教職課程の学生と留学生が交流を深めることで、国際感覚を養い、グローバルな視点を持つことができ、それは将来、彼らが教員になったときに生かすことができるでしょう」と話す。そして、学生たちには「小・中・高等学校へボランティアで入ったときには、子供たちに向かって、胸を張って『教員を目指している』と伝えてほしい。学生たちが嬉々としてMETTS Commonsを紹介したり、夢を語ったりすることで、さらに教員を目指す人が増えたらうれしいですね」と目を輝かす。

小学校の新学習指導要領実施まで半年を切った。小学校へ研修に訪れる



明海大学 教職課程センター・地域学校教育センター
石鍋 浩 教授

たびに、先生方の努力には頭が下がると石鍋先生は言う。そして、「素晴らしい授業を見たのですが、その先生が『実は英語が苦手で、英語で授業をすることになるなんて思いもせず、異動してきて初めて本格的に授業をしたのです』と言うのです。ほかにも、学校全体で指導案を作るなど、先生同士で学び合っている様子を多く見るようになりました。だからこそ、中学校の先生方にはもっと小学校の現状を知ってもらいたい。小学校の先生ががんばっていらっしゃることを受け継いで、さらに伸ばすような授業をつくっていただきたいものです」と述べた。

学校で愛される教員をこれからも育てていく

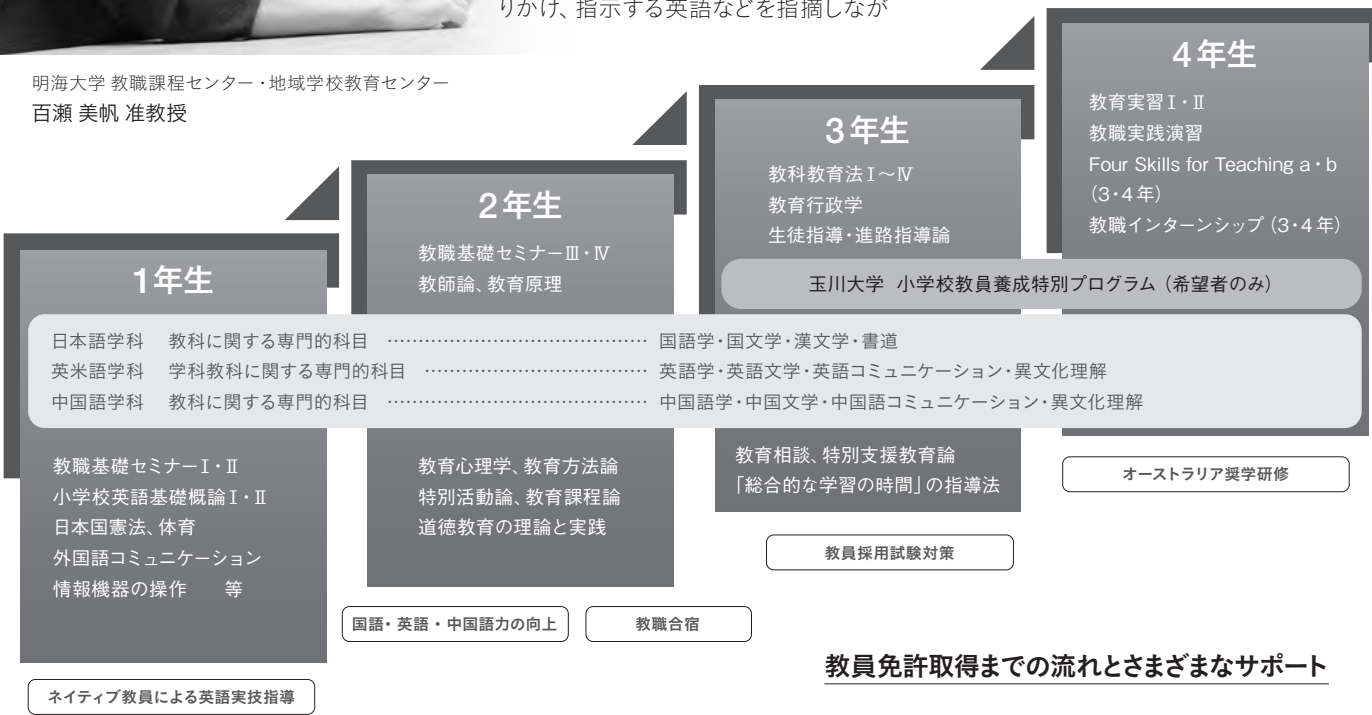
今年度、明海大学では14名が教員採用試験の一次試験に合格した。そのうち11名が中学・高等学校の英語科教員を目指しているという。高野副学長は「教職課程を履修する4年生20名のうち、昨年度の卒業生を含む11名が一次試験に合格するまでに実力を付けることができたことは、教職課程センターの教員たちの親身な指導の成果」だと高く評価する。多くの学生は、中学・高等学校の英語学習でつまずいた経験があり、自己肯定感や自己有用感が低いなかで入学してくるというが、「だからこそ、本学の学生は児童生徒に寄り添った“心ある教育”ができる教員になれると信じてい

ます。学生たちは大学4年間を通じて、英語と悪戦苦闘しながら、必死で学ぶうちに、だんだんと英語が理解できるようになっていきます。そういう経験をした学生だからこそ、子供たちの心やつまずきが分かる教員になれるのではないのでしょうか」と高野副学長は胸を張る。実際のところ、学校現場から聞こえてくる卒業生たちに対する評価は「子供の気持ちに寄り添って指導してくれる」などだという。「学びの可能性を信じて、しっかりと寄り添う教員のもので自信を付け、教員として巣立っていく学生たちは、愛される教員へと成長しています。これからも、そのような教員を育てていきたい

ですね」。そのためにも高野副学長は、教職課程のあるべき姿を模索し、今後とも教職を目指す学生たちが学び、実践を積んでいく「場」づくりに邁進する。そして、教職課程センター・地域学校教育センターの教員たちは、学生たちに寄り添いながら、自身がロールモデルとなり、教員としての理想像を示し続ける。



明海大学 教職課程センター・地域学校教育センター
百瀬 美帆 准教授



News & Topics

公益財団法人 日本英語検定協会からのお知らせ

公益財団法人 日本英語検定協会（英検協会）が行っている事業より、皆さまのお役に立つ各種情報をお知らせします。

お知らせ

『英語情報』追加ご希望の方へ

『英語情報』は、各校に1冊お届けしております。追加分をご希望の方は、お手数ですが、250円切手を貼り、住所・氏名をご記入のうえ、定形外封筒を下記までお送りください。封筒を受領後、約10日で追加1冊分を発送いたします。

※お送りできるのは、2019年度以降発行分となります。在庫には限りがございます。在庫がない場合は、英検協会ウェブサイトに掲載いたします。必ずウェブサイトにて在庫の有無をご確認ください。在庫がないことをお知らせした日付以降の消印でご希望いただいた場合には、追加送付ができませんのでご了承ください。複数冊をご希望の場合は、ご希望の冊数が入る封筒に送料分の切手を貼り付けて、下記までお送りください。

追加送付用封筒の郵送先

〒162-8055 東京都新宿区横寺町55
公益財団法人 日本英語検定協会 CS部 CS企画課『英語情報』係



講師派遣

「英検講師派遣」をご活用ください

英検協会では、1988年より「英検講師派遣事業」を行っています。この事業は、全国各都道府県教育委員会や、中学校英語教育研究会（中英研）および高等学校英語教育研究会（高英研）が開催するセミナー等にて、ご希望の講演テーマ・目的にふさわしい講師をご紹介します、セミナー当日にご講演いただくものです。2020年度は下記の日程にて、お申し込みを受け付けております。

※ご利用には条件がございます。

<2020年度 申込受付期間>

毎年、上半期（4月～9月）と下半期（10月～3月）の2期に分けて設定しています。2020年度の申込受付期間は次の通りです。

セミナー開催時期	受付締切
2020年4月1日（水）～2020年9月30日（水）	2020年2月28日（金）
2020年10月1日（木）～2021年3月31日（水）	2020年7月17日（金）

「英検講師派遣」をご検討されている場合、まずは下記までお問い合わせください。受付締切日を過ぎていても、ご希望の講演内容や対象者、講演会の種類・規模等によっては、受け付けさせていただく場合がございます。

【お問い合わせ】 公益財団法人 日本英語検定協会 講師派遣事業 事務局
TEL：0800-200-6722（平日9:30～17:00） E-mail：midas-koushi-haken@eiken.or.jp

News & Topics

お知らせ

2019年度 教員専用「特別検定料制度」をご活用ください

中学校・高等学校の英語科教員の皆さまへ 中学校・高校教員専用「特別検定料制度」のご案内

英検協会は、文部科学省の「英語力向上のための5つの提言」を受けた取り組みを全面的に支援し、中学校・高等学校の英語科教員を対象として、英検を教員特別検定料にてご提供しています。

◆助成の対象者

学校教育法第1条に規定された学校のうち、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校、高等専門学校に勤務する英語科教員の方。

※海外勤務の方はご利用いただけません。

※常勤に限るものとします。

※勤務校が英検の団体登録をしていることが必要です。

◆助成の対象となる級および教員特別検定料

対象級	特別検定料（税込）	定価（税込）
1級	7,100円	9,500円
準1級	3,800円	7,600円
2級	3,200円	6,500円
準2級	4,400円	5,900円
3級	3,700円	4,900円
4級	2,700円	3,600円
5級	2,200円	3,000円

※通常の受験と同様、合格級の資格取得を認定します。

◆お申し込みについて

1. 英検ウェブサイトの専用ページよりお申し込みください。
2. お手元に届いた「簡易書留はがき」に記載の「英検団体番号」「教員助成パスコード」を入力してください。
3. ご入力いただいたご住所に受験票～可否結果をお送りします。

※当制度で指定された申込方法以外でのお申し込みは、助成制度の適用対象外となります。

※一次試験、二次試験ともに国内の公開会場での受験となります。

※お申し込みは個人扱いとなり、勤務校へ申込内容や試験結果を集計した資料をお送りすることはありません。

※英語科教員の方には、調査研究および統計資料作成を目的として、お申し込みの際に実施するアンケート調査などにご協力いただきます。

小学校教員の皆さまへ 小学校教員専用「特別検定料制度」のご案内

英検協会は、文部科学省の「グローバル化に対応した英語教育実施計画」に基づき、その施策に協力する形で、小学校教員を対象として、英検を教員特別検定料にてご提供しています。

◆助成の対象者

学校教育法第1条に規定された学校のうち、日本国内の小学校に勤務する教員の方。

※外部講師、海外校に勤務されている方はご利用いただけません。

※常勤に限るものとします。

◆助成の対象となる級および教員特別検定料

対象級	特別検定料（税込）	定価（税込）
1級	7,100円	9,500円
準1級	3,800円	7,600円
2級	3,200円	6,500円
準2級	4,400円	5,900円
3級	3,700円	4,900円
4級	2,700円	3,600円
5級	2,200円	3,000円

※通常の受験と同様、合格級の資格取得を認定します。

◆お申し込みについて

- ・必要事項を明記した「願書」
- ・「小学校教員対象 英検検定料助成申請書」
- ・郵便為替に換えた「検定料」

の3点を同封のうえ、簡易書留にて、各検定の申込期間内に下記までお送りください。

〒162-8055 東京都新宿区横寺町55
公益財団法人 日本英語検定協会
英検サービスセンター 小学校教員検定料助成係

※お申し込み期間の協会必着日の厳守をお願いいたします。

※当制度で指定された申込方法以外でのお申し込みは、助成制度の適用対象外となります。

※一次試験、二次試験ともに国内の公開会場での受験となります。

※当制度を利用して受験される場合、申込内容・受験結果を個人が特定されない形で調査研究資料および統計資料として国・都道府県・市区町村または一般に対して公開します。

教員専用「特別検定料制度」に関するお問い合わせ

公益財団法人 日本英語検定協会 英検サービスセンター
TEL：03-3266-6581 ※9:30～17:00（土日・祝日を除く）

お知らせ

実用英語技能検定受験時に必要な書類について（2019年度第1回から変更）

2019年度第1回検定一次試験より、本人確認強化のため、

1～3級で持参書類を全て忘れた受験者は受験をお断りさせていただきます。

なお、4・5級で持参書類を忘れた場合は、必ず受付に申し出てください。

検定当日は、下記の持参書類を確認のうえ、必ずお持ちいただくようお願いいたします。

※スマートフォンの画面等で持参書類を提示された場合も、「持参書類忘れ」とみなしますので、ご注意ください。

一次試験（本会場）

1～3級 持参書類



一次受験票兼本人確認票*

※未着や紛失によりお手元がない場合は、「受験許可証」を必ず持参してください。

身分証明書
(有効期限内)

写真
タテ3cm ×
ヨコ2.4cm

4・5級 持参書類



一次受験票

または



受験許可証

4・5級で持参書類を全て忘れた場合は、必ず受付に申し出てください。

二次試験

※受験票が未着や紛失によりお手元がない場合は、「受験許可証」を必ず持参してください。

一次試験を 本会場 で受験



本人確認票

(写真あり・協会印押印済)

※協会印がない場合は身分証明書を持参してください。

※一次試験を本会場で受験した受験者で、持参書類を全て忘れた場合でも、身分証明書を持参している場合は受験可能です。

二次受験票

一次試験を 準会場 で受験
(一次試験免除者を含む)

二次受験票に貼付



二次受験票



身分証明書
(有効期限内)



写真
タテ3cm ×
ヨコ2.4cm

個人申込・団体本会場申込の一次試験免除者



本人確認票



二次受験票



身分証明書
(有効期限内)



写真
タテ3cm × ヨコ2.4cm

身分証明書として
認められているもの



・運転免許証 ・パスポート ・健康保険証（コピー可）
・社員証 ・学生証 ・生徒手帳（写真なし可）
・マイナンバーカード 等



・名刺・会員カード類
・定期券
・有効期限外の身分証明書

Information

英検® 試験問題と解答の
ウェブサイト公開のご案内

公益財団法人 日本英語検定協会は、より広範な情報公開と、サービスの質的向上を図るべく、一次試験問題を英検ウェブサイトにて公開するサービスを行っております。一次試験日から約1週間後に問題を提供いたします。英検ウェブサイトのURLは、下記の通りです。



英検試験問題

<https://www.eiken.or.jp/eiken/exam/>

一次試験の「解答速報」は、毎回一次試験日の翌月曜日13時以降に英検ウェブサイトにて公開いたします。



英検解答速報

<https://www.eiken.or.jp/eiken/result/>

本誌について

お問い合わせ先

英検サービスセンター TEL 03-3266-8311

本誌は以下、英検ウェブサイトよりPDFにてダウンロードしていただくことが可能です。



『英語情報』掲載URL

<https://www.eiken.or.jp/eiken/group/>

お問い合わせ電話案内

電話番号はお間違えないようお願いいたします。

英検申込受付に関すること（出願、検定料など）	英検サービスセンター	（個人）03-3266-8311 （団体）03-3266-6581
英検受験に関すること（受験票、会場、合格通知など）	英検サービスセンター	
英検Jr.に関すること	英検サービスセンター	（英検Jr.）03-3266-6463
BULATS・GCASに関すること	BULATS・GCAS 事務局	03-3266-6366
IELTSに関すること	IELTS 事務局	03-3266-6852
TEAPに関すること	TEAP 運営事務局	03-3266-6556
英検留学に関すること	英検留学情報センター	03-3266-6839
通信講座に関すること	通信教育課	03-3266-6521
その他のお問い合わせ	英検サービスセンター	03-3266-8311

※全国の英語教育に関する研究会、セミナーなどのウェブへの情報掲載については、英検のウェブサイトのフォームよりお申し込みください。

編集後記

このたびの台風15号ならびに台風19号により被災された皆さまには、謹んでお見舞い申し上げます。皆さまのご安全と、一日も早い地域の復興を心よりお祈りいたします。

新創刊した『英語情報』をお届けいたしました。今号では、新学習指導要領実施を目前に控えた小学校では、授業をどのように改善すべきか、評価はどうなるのか、実際にどのような実践が行われているのかなどを踏まえ、「小学校英語」の特集を組みました。授業で活用できるクラスルーム・イングリッシュ、問いかけの表現、帯活動のアイデアなどもご紹介しています。また、高等学校での「夏休み課題」のあり方、生徒の可能性を信じた教育、教員研修や教職課程の取り組みなどの記事も、ぜひご覧ください。

『英語情報』はこれからも、全国の小・中・高等学校の先生方や教育関係者の皆さまに寄り添い、授業改善に役立つ情報提供をしてまいります。皆さまのご意見・ご要望を編集部へお寄せください。

『英語情報』編集部一同

英語情報 創刊号

2019年11月15日発行

発行 公益財団法人 日本英語検定協会
CS部 CS企画課
〒162-8055
東京都新宿区横寺町55

編集長 小野島 恵次（JEEN）
編集・デザイン 株式会社モアカラ
制作 株式会社マイダスコミュニケーション
印刷・製本 佐伯印刷株式会社

©無断転載、複製を禁じます。

©2019 公益財団法人 日本英語検定協会

大学入試で高い採用率を占める

実用英語技能検定(従来型)、 TEAP、TEAP CBT

2019年度外部検定を利用した入試の中で、実用英語技能検定(英検®)の採用率は、推薦・AO入試、一般入試でそれぞれ90%*を超え、TEAPの一般入試での採用率は80%*を超えています。また、「受験生が大学入試で利用しようとしている英語外部資格・検定試験」に関する調査*では、英検が高い比率を占め、TEAPが続いています。

*旺文社教育情報センター調べ(採用率は学科単位で集計・算出)



年間試験日程

英検

※旺文社教育情報センター調べ

2019年度 実用英語技能検定(従来型) 試験日程

	受付期間	一次試験	二次試験
終了 しました 第1回検定	3月15日(金)～5月9日(木) 書店受付締切日:4月26日(金)	本会場:6月2日(日) 準会場(すべての団体):6月1日(土)、2日(日) 準会場(中学・高校のみ):5月31日(金)	A日程:6月30日(日) B日程:7月7日(日)
終了 しました 第2回検定	8月1日(木)～9月12日(木) 書店受付締切日:9月6日(金)	本会場:10月6日(日) 準会場(すべての団体):10月5日(土)、6日(日) 準会場(中学・高校のみ):10月4日(金)	A日程:11月3日(日) B日程:11月10日(日)
第3回検定	11月22日(金)～12月12日(木) 書店受付締切日:12月6日(金)	本会場:2020年1月26日(日) 準会場(すべての団体):2020年1月25日(土)、26日(日) 準会場(中学・高校のみ):2020年1月24日(金)	A日程:2020年2月23日(日) B日程:2020年3月1日(日)

TEAP

2019年度 TEAP 試験日程

	試験日	申込期間
終了 しました 第1回	7月21日(日)	5月13日(月)～6月16日(日) コンビニ・郵便局ATM 5月13日(月)～6月27日(木)16時 クレジットカード
終了 しました 第2回	9月15日(日)	7月8日(月)～8月4日(日) コンビニ・郵便局ATM 7月8日(月)～8月15日(木)16時 クレジットカード
第3回	11月17日(日)	9月9日(月)～10月13日(日) コンビニ・郵便局ATM 9月9日(月)～10月24日(木)16時 クレジットカード

TEAP CBT

2019年度 TEAP CBT 試験日程

	試験日	申込期間
終了 しました 第1回	6月16日(日)	4月15日(月)～5月16日(木) コンビニ・郵便局ATM 4月15日(月)～5月23日(木)16時 クレジットカード
終了 しました 第2回	8月11日(日)	6月3日(月)～7月11日(木) コンビニ・郵便局ATM 6月3日(月)～7月18日(木)16時 クレジットカード
第3回	10月20日(日)	8月19日(月)～9月19日(木) コンビニ・郵便局ATM 8月19日(月)～9月26日(木)16時 クレジットカード



公益財団法人
日本英語検定協会
Eiken Foundation of Japan